

〈資 料〉

幕末・明治・大正期
イギリス日本人留学生資料(1)*

List of Names of Japanese Students in
England, 1862-1926(1)

井 上 琢 智

Japanese students going overseas to study and the Yatoi (foreign employees) in the Meiji and Taisho Eras played an important role in the modernization of Japan.

This list of names includes Japanese students who studied in England between 1862 and 1926. To compile this list, we used original documents in English, such as *The Book of Matriculations and Degrees: a Catalogue of those who have Matriculated or admitted to any Degree in the University of Cambridge from 1851-1900* and *University College's Calendar and its Fees Books*, in addition to as many of the Japanese students' biographies and diaries as we could obtain.

Takutoshi Inoue

JEL : A14, B31

キーワード : 日本人留学生、イギリス、日本、近代化、明治期、大正期

Key Words : Japanese students, England, Japan, modernization, Meiji and Taisho Eras

はじめに

幕末・明治期における海外への日本人留学生は、「政治・法制・産業・財政・教育・文化・技術・医学などにわたる実に多様な分野で日本の近代化に貢献す

* 本稿は、井上琢智「イギリス留学生・お雇い外国人」(杉原四郎編『近代日本とイギリス思想』日本経済評論社、1995)の執筆に際して作成した資料を基礎に、さらに拡張したものである。また、資料の大きさから、編集委員会の了承を得て、2回に分載することとなった。

る役割を担って活躍した」¹⁾「お雇い外国人」と同様、日本の近代化の過程で不可欠な存在であった。

この「お雇い外国人」については、戦前からその個別研究が行われ、その基礎の上に「明治百年記念」する 1968 年を前後して、新たな段階に達した²⁾。例えば、梅溪昇自身『お雇い外国人—明治日本の脇役たち—』日本経済新聞社、1965 を出版し、研究の先頭に立った。彼を含む「お雇い外国人」研究者は、1967 年にラトガーズ大学で国際文化交流の百年祭行事として開催された Rutgers-Japan Conference に参加し³⁾、日本人研究者だけでなく、外国人研究者を巻き込み、その成果は A. W. Burks (ed.), *The Modernizers: Overseas Student, Foreign Employees and Meiji Japan*, 1985 として公刊された。その後、鹿島研究所出版会が明治百年記念出版として『お雇い外国人』全 17 巻、1968-1976 を刊行し、他方、その資料整備の成果は、ユネスコ東アジア分化研究センター『資料御雇外国人』小学館、1975 として公表された。また、第二回の国際会議が、1985 年にラトガーズ大学の所在地ニューブランズウィック市の姉妹都市福井市で開催され、その成果は『ザ・ヤトイーお雇い外国人の総合的研究—』思文閣出版、1987 となった。これら諸研究を事典の形で出版されたのが、武内博編『来日西洋人名事典』日外アソシエーツ、1983 であった。

このような「お雇い外国人」研究と対をなす「日本人留学生」研究もまたこの明治百年記念を前後して進められた。戦前の研究を別にすれば⁴⁾、その初期に属する研究成果は下村富士男『明治初年条約改正史の研究』吉川弘文館、1962 であり、また、林竹二が『日米フォーラム』などで公表した一連の「幕末の海外留学生—日本人の足跡をたずねて—」⁵⁾1964 研究、お雇い外国人研究に

1) 梅溪昇「お雇い外国人の国際的背景」、ユネスコ東アジア分化研究センター『資料御雇外国人』、9 頁、小学館、1975。

2) 明治百年記念以前の「お雇い外国人」に関する研究史については、梅溪昇「来日外国人に関する研究史」(前掲書『資料御雇外国人』55-74 頁)を参照のこと。

3) この国際会議義へ参加者は、梅溪の他、金井圓、渡辺正雄、本山幸彦、石附実、金子忠史ら 10 名であった。

4) 視察・遊学生・留学生に関する研究史は、その個性ゆえにか、未だ書かれていないと思われる。

5) その後、『幕末海外留学生の記録』(林竹二著作集)第 4 巻、1985 として再刊された。

も関わった石附実も『近代日本の海外留学生史』⁶⁾ミネルヴァ書房、1972を公刊し、また、渡辺実『近代日本海外留学生史』全2巻、講談社、1977が出版され、渡航・遊学・留学生の全体像が明らかにされた。また、日本英学史学会も『英語事始』日本ブリタニカ、1976を出版するなど、この分野の研究に貢献した。このような諸研究が事典の形で出版されたのが、富田仁編『海を越えた日本人名事典』日外アソシエーツ、1985であった。また、その資料研究は、手塚晃・国立教育会館編『幕末明治海外渡航者総覧』全3巻、柏書房、1992として公刊された。

このような「お雇い外国人」研究、「渡航・遊学・留学生」研究の成果をもとに本資料が取り扱うのは、幕末・明治・大正の日本がもっとも優れた「模範国」と評価したイギリスへの「渡航・遊学・留学生」に関する資料である。すでに、従来の資料研究によってその実態は明らかにされてきた。しかし、前述の石附実『近代日本の海外留学生史』、渡辺実『近代日本海外留学生史』、富田仁編『海を越えた日本人名事典』、手塚晃・国立教育会館編『幕末明治海外渡航者総覧』などの研究は主として日本側の資料に基づく研究であり、イギリス側の資料に基づくものではない。『明治日本とイギリス』を著したチェックランドはその理由を以下のように指摘する。

「彼ら〈留学生〉の足跡をたどるのは容易なことではない。ヴィクトリア朝時代の学生は、イギリス人学生であれ外国人学生であれ、総合的学位課程を無事修了して大学の卒業生名簿に氏名が記載されとは限らなかった。一学期限りの単科課程に登録した学生が多かった」。しかし、「幸いなことに、卒業しなかった日本人留学生の中には、自伝の中で大学での勉強についてくわしく触れている者もいた」⁷⁾。

6) 本書は中公文庫の一冊として1992年に再刊された。

7) Checkland, O., *Britain's Encounter with Meiji Japan, 1868-1912*, 1989 (杉山忠平・玉置紀夫訳『明治日本とイギリス』法政大学出版局、1996, [171頁])。チェックランドは、この時点で、ロンドン大学ユニバーシティ・カレッジ、キングス・カレッジ、インペリアル・カレッジ、マンチェスター大学、ニューカッスル・アポン・タイン大学、ケンブリッジ大学のいくつかのカレッジ、オックスフォード大学のペイリオル・カレッジ、さらにセント・アンドリュース大学、グラスゴウ大学、アバディーン大学を中心に学籍簿の調査を行った(353

しかし、井上琢智「近代経済学導入の一齣— W. S. ジェヴォンズと七人の日本人留学生—」（『大阪商業大学論集』54 号、1979）、北政巳「工部大学校とグラスゴウ大学—日蘇関係史の一視点—」（『社会経済史』第 46 巻第 5 号、1980）、島田次郎「ミドル・テンプルと日本人留学生覚書」（『中大百年史編纂ニュース』5、1985）に見られるように、留学先の卒業名簿や学籍簿などイギリス側の資料に基づく資料研究がしだいに進められている⁸⁾。「渡航・遊学・留学生」とりわけ留学生研究⁹⁾にとって、このようにイギリス・日本双方の資料を可能な限り整える必要があることはいうまでもない。この点を本資料では反映している¹⁰⁾。なお、本資料は、主として手塚晃・国立教育会館編『幕末明治海外渡航者総覧』基礎にし、富田仁編『海を越えた日本人名事典』を主たる補助資料としている。従って、以下の【資料】の項には、その書名を掲げていない。また伝記資料については、法政大学文学部史学研究室編『日本人物文献目録』平凡社、1974 を参照した¹¹⁾。

頁)。また、外国人研究者による留学生研究の一冊に以下の文献がある。Bartholomew, J. R., *The Formation of Science in Japan, Building a Research Tradition*, Yale U. P., 1989.

8) 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』講談社、1998.

9) 近年のイギリス側資料に基づく調査資料については、各節の最初の脚注および【資料】の中で示している。

10) とりわけ、留学生研究にとっては、この在学中の実態（在籍期間・履修科目・指導教員など）を明らかにすることは不可欠である。このような立場から、本資料は留学先別に配列している。従って、複数の在籍がある場合には、それぞれの学校にその氏名を掲げている。

11) 今回公表する本資料は、当該調査研究の中間報告にすぎないため、今なお不十分なものである。ありうべき多くの誤りについてご教授いただければ幸いである。また、【著作】欄の文献については最小限に止めた。さらに【資料】欄の文献は、伝記など留学中の情報が記述されている資料を中心に掲げたため、必ずしも網羅的なものではない。

第1節 ロンドン大学

1. ユニバーシティ・カレッジ・スクールとユニバーシティ・カレッジ¹²⁾

1-1) ユニバーシティ・カレッジ・スクール在籍者・卒業者

市川盛三郎（森三郎，平岡盛三郎：1852.8-1882.10.26：滞在：1866.10-68〈ユニバーシティ・カレッジ・スクール [W. V. ロイド] →ユニバーシティ・カレッジ→マンチェスター大学 [B. ステュアート] 〉，1877.5.79-）江戸福井藩邸出身，公費留学，私費留学（杉浦重剛・桜井錠二・穂積陳重・井上勝之助・岡村輝彦と交友），目的：理学（数物）系，帰国後勤務先：東京大学理学部講師（2回目）【著作】『ロスコー化学小学』【資料】原平三「市川盛三郎」『伝記』9-3/4，杉浦重剛「市川盛三郎略伝」『東洋学芸雑誌』14，原平三「徳川幕府の英国留学生一幕末留学生の研究」『歴史地理』79-5，小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』，日蘭学会編『洋学史事典』

岩佐源二（1845-?．滞在：1866.10-68.6〈ユニバーシティ・カレッジ・スクール [W. V. ロイド]〉）東京出身，公費留学，帰国後勤務先：静岡学問所四等教授【資料】原平三「徳川幕府の英国留学生一幕末留学生の研究」『歴史地理』79-5，林董『後は昔の記』，石附実『近代日本の海外留学史』

岡保義（伊東昌之助：1847-?．滞在：1866.10-68.6〈ユニバーシティ・カレッジ・スクール [W. V. ロイド]〉）東京出身，公費留学，帰国後勤務先：開成所教授→鉾山寮権助(1875)【資料】原平三「徳川幕府の英国留学生一幕末留学生の研究」『歴史地理』79-5，林董『後は昔の記』

億川一郎（岸本一郎：1849〈6.10〉¹³⁾-78.3.7．滞在：1866.10-68.6〈ユニバーシティ・カレッジ・スクール [W. V. ロイド]〉）兵庫出身，公費留学，目的：理

12) ユニバーシティ・カレッジ・スクールおよびユニバーシティ・カレッジの在籍確認ために利用したのは主として以下の資料である。

① *University College, Calendar, Students of The College*, 1864-1867, 1868-89.

② *University College, Fees Books*, 1875-1880

③ 藤井泰「ロンドン大学の薩摩藩留学生覚え書一日英教育交渉史研究」『松山商大論集』第38巻第4号、1987。

④ 藤井泰「山尾庸三とユニバーシティ・カレッジ」『英学史研究』第22号、1988。

13) 生年月日の内〈 〉内で示された数字は旧暦によるものである。

学（化学）系，出身校：開成所，帰国後勤務先：尼崎藩洋学教師→大阪理学校（舎密局）→大蔵省紙幣寮→舎密局長【資料】原平三「徳川幕府の英国留学生一幕末留学生の研究」『歴史地理』79-5，緒方富雄「短命であった大阪舎密局」『蘭学資料研究会研究報告』277，林董『後は昔の記』，『明治過去帳』菊池大麓（箕作：1855.1. -1917.8.20. 滞在：1866-68.6, 1870-77〈ユニバーシティ・カレッジ・スクール [W. V. ロイド] →ユニバーシティ・カレッジ〉，1884.7.22-85.6.21〈ケンブリッジ大学 [St. John's College, 1873-77]・ユニバーシティ・カレッジ〉）江戸出身，公費留学，公費留学，公費個人視察，目的：理学（数学）系，帰国後勤務先：東京大学（2回目）【資料】「菊池大麓君」『東洋学芸雑誌』20，「菊池大麓君」『東洋学芸雑誌』35，「菊池大麓君」『東洋学芸雑誌』65，「菊池氏の談話」『東洋学芸雑誌』67，「嗚呼菊池大麓先生」『東洋学芸雑誌』432，窪田忠彦「菊池大麓先生と天野一丞先生」『科学』18-1，中山茂「菊池大麓のケンブリッジ時代について」『科学史研究』63，佐々醒雪等「浜尾総長と菊池総長」『中央公論』25-4，藤井泰「ケンブリッジ大学の日本人留学生（1873-1911）ーケンブリッジ大学側の資料ー」『松山大学論集』5-4，小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』，『公文録』，『太政類典』，唐沢富太郎『教育人物事典』，『日本人名大事典』

岸本一郎→億川一郎

小室三吉（1863〈7〉-1921.10.18. 滞在：1870?-82?〈ユニバーシティ・カレッジ・スクール→ユニバーシティ・カレッジ〉）江戸出身，私費留学，目的：経済学，帰国後勤務先：三井物産入社（1884）→香港・上海・ロンドン各支店長→三井物産取締役【資料】山田立夫編『小室訃菴翁父子小伝』，九和会『思出の数々ー男爵桜井錠二遺稿ー』，石附実『近代日本の海外留学史』，『日本人名大事典』

杉徳次郎（1850-明治初年. 滞在：1866.10-68.6〈ユニバーシティ・カレッジ・スクール [W. V. ロイド]〉）公費留学，帰国前勤務先：開成所英学世話心得，帰国後勤務先：静岡県学問所四等教授→沼津兵学校教員【資料】原平三「徳川幕府の英国留学生一幕末留学生の研究」『歴史地理』79-5

外山正一（捨八：1848〈9.27〉-1900.3.8. 滞在：1866.10-68.6〈ユニバーシティ・カレッジ・スクール〔W. V. ロイド〕〉, 1870-76〈ミシガン大学〉）江戸出身, 公費留学, 目的：人文系, 理学（化学）系, 初勤務先：開成所教授手伝並出役, 帰国後勤務先：開成所教授（2回目）【資料】外山正一『外山存稿』, 三上参次『外山正一小伝』, 佐佐木信綱『外山正一先生師恩学恩』, 原平三「徳川幕府の英国留学生—幕末留学生の研究—」『歴史地理』79-5, 唐沢富太郎『教育人物史』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『日本人名大事典』

成瀬錠五郎（1849-?. 滞在：1866.10-68.6：ユニバーシティ・カレッジ・スクール〈W. V. ロイド〉）公費留学, 帰国後勤務先：静岡赴任【資料】原平三「徳川幕府の英国留学生—幕末留学生の研究—」『歴史地理』79-5

林董（桃三郎：1850.2.22-1913.7.10. 滞在：1866.10-68.6〈ユニバーシティ・カレッジ・スクール〔W. V. ロイド〕〉, 1871.12.23-72.5, 1882.6-83.2）江戸佐倉藩出身, 公費留学, 公費団体視察, 公費団体視察, 出身校：ヘボン塾, 帰国後勤務先：神奈川県出仕, 特命全権公使（1900.7.6）→（公使館から大使館へ昇格）→特命全権大使（1905.12.2）【資料】林董『後は昔の記』, 「故前会長伯爵林董君略伝」『電気学会雑誌』33-302, 原平三「徳川幕府の英国留学生—幕末留学生の研究—」『歴史地理』79-5, 秦郁彦『戦前期日本官僚制の制度・組織・人事』, 『公文録』, 『太政類典』, 『日本人名大事典』

平岡盛三郎→市川盛三郎

福沢英之助（和田慎次郎：1847-1900.1.8. 滞在：1866.10-68.6〈ユニバーシティ・カレッジ・スクール〈W. V. ロイド〉〉）中津出身, 公費留学, 帰国後勤務先：岡山で中学校教師→貿易業→『郵便報知新聞』社員【資料】原平三「徳川幕府の英国留学生—幕末留学生の研究—」『歴史地理』79-5, 林董『後は昔の記』, 丸山信編『福沢諭吉とその門下書誌』

箕作奎吾（1852.1.26-1971.6.14. 滞在：1866.10-68.6〈ユニバーシティ・カレッジ・スクール〔W. V. ロイド〕→ケンブリッジ大学〉）津山出身, 公費留学, 目的：人文系, 出身校：開成所, 初勤務先：開成所教授補【資料】「箕作教授略伝」『動物学雑誌』22-255, 「箕作博士年譜」『動物学雑誌』22-356, 「箕

作博士記念号』『動物学雑誌』22-356, 外務省外交史料館蔵『渡航人明細鑑』, 呉秀三『箕作阮甫』, 原平三「徳川幕府の英国留学生—幕末留学生の研究—」『歴史地理』79-5, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 倉沢剛『幕末教育史の研究』, 『明治過去帳』

箕作大六→菊池大麓

森三郎→市川盛三郎

安井真八郎 (1847-?. 滞在: 1866.10-68.6 〈ユニバーシティ・カレッジ・スクール [W. V. ロイド]〉) 公費留学, 帰国後勤務先: 駿河に赴任(76.9) 【資料】原平三「徳川幕府の英国留学生—幕末留学生の研究—」『歴史地理』79-5, 倉沢剛『幕末教育史の研究』

和田慎次郎→福沢英之助

1-2) ユニバーシティ・カレッジ在籍者・卒業者

赤松連城 (1841-1919.7.20. 滞在: 1872.1.27-74.8.20 〈ユニバーシティ・カレッジ [Akamatz, S., 確認在籍: 1873-74]〉) 金沢出身, 私費留学 (堀川教阿と同行), 目的: 宗教, 初勤務先: 西本願寺僧侶 【資料】常光浩然『近代仏教界の人間像』, 常光浩然『明治の仏教者』, 増谷文雄『明治高僧伝』, 『近世防長人名辞典』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『近代日本哲学思想家辞典』, 『日本人名大事典』

赤嶺五作 (?-?. 滞在: 1871.2-78.6.11 〈ユニバーシティ・カレッジ〉) 熊本出身, 公費渡航, 目的: 造船学, 出身校: 海軍兵学寮 【資料】外山操編『陸海軍将官人事総覧』(海軍編), 『太政類典』, 『海軍兵学校沿革』

朝倉省吾→田中静洲

天野清三郎→渡辺蒿蔵

伊賀陽太郎 (1851-97.5.3, 滞在: 1871-88 〈ユニバーシティ・カレッジ [Iga, Y., 確認在籍: 1878-79: W. S. Jevons, 1878-79]〉) 高知県宿毛出身, 自主渡航, 目的: 工学系, 帰国後勤務先: 農商務省出仕 【資料】井上琢智「近代経済学導入の一齣—W. S. ジェヴォンズと七人の日本人留学生—」『大阪商業大学

論集』54, 『宿毛人物史』, 『高知県人名事典』, 『太政類典』

市川盛三郎 (森三郎, 平岡盛三郎: 1852.8-1882.10.26: 滞在: 1866.10-68 <ユニバーシティ・カレッジ・スクール [W. V. ロイド] →ユニバーシティ・カレッジ→マンチェスター大学 [B. ステュアート]>), 1877.5.79-) 江戸福井藩邸出身, 公費留学, 私費留学 (杉浦重剛・桜井錠二・穂積陳重・井上勝之助・岡村輝彦と交友) 目的: 理学 (数物) 系, 帰国後勤務先: 東京大学理学部講師 (2回目) 【著作】『ロスコー化学小学』【資料】原平三「市川盛三郎」『伝記』9-3, 9-4, 杉浦重剛「市川盛三郎略伝」『東洋学芸雑誌』14, 原平三「徳川幕府の英国留学生一幕末留学生の研究」『歴史地理』79-5, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 日蘭学会編『洋学史事典』

市来勘十郎 (松村淳蔵: 1842.5-1919.1, 滞在: 1865.5-73.11.11 <ユニバーシティ・カレッジ [Massumura, 確認在籍: 1865-66, Matsumulla, 確認在籍: 1866-67: A. W. Williamson] →ラトガス大学→アナポリス海軍兵学校>), 1875.5-75.12) 薩摩出身, 公費留学, 目的: 軍事, 出身校: 薩摩開成所, 帰国後勤務先: 海軍中佐 【資料】「男爵松村淳蔵君慶応元年間洋行記事」『史談会記録』166-68, 『松村淳蔵洋行日記』, 『薩藩海軍史』, 犬塚孝明『薩摩藩英国留学生』, 『太政類典』, 『明治維新人名辞典』, 『日本人名大事典』

伊藤弥次郎 (?-?, 滞在: 1874-80.11 <ユニバーシティ・カレッジ [Ito, Y., 確認在籍: 1874-75]>)) 長崎県出身, 私費留学, 公費留学, 目的: 鉱山学, 帰国後勤務先: 工部省鉱山課出仕 【資料】『太政類典』, 『工部省沿革報告』, 『歴代頭官録』, 石附実『近代日本の海外留学生史』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』

Inouye, S. T. A. (確認在籍: 1878-79)¹⁴⁾

井上馨 (志道聞多: 1835.11.28-1915.9.1, 滞在: 1863.5-64.6, 1876.6-78.7.14 <ユニバーシティ・カレッジ [Inouye, B. 確認在籍: 1875-76: A. W. Williamson]>)) 山口県出身, 公費留学, 公費団体視察, 目的: 軍事, 財政・金融 (財政調査制

14) 外国側資料でその在学等が確認できるものの、日本側資料では未だ確認できない人物の場合には、ローマ字表記もしくは原則カタカナ表記 (「ハンター・エドワード」の項を除く) とする。

度)【資料】史談会編刊『井上馨卿伝』, 渡辺修二郎『評伝井上馨』, 伊藤痴遊『井上侯全伝』, 中原邦平『井上伯伝及付録』, 『太政類典』, 『明治維新人名辞典』, 『日本人名大事典』

井上勝 (野村弥吉: 1843.8.1-1910.8.2, 滞在: 1863.5-68.9 〈ユニバーシティ・カレッジ [Nomuran, 確認在籍: 1863-67: A. W. Williamson], 1910.5-〉) 山口県萩出身, 公費留学, 公費団体視察, 目的: 工学 (鉱山学) 系, 出身学校: 藩書調所, 初勤務先: 造幣頭兼鉱山正【資料】村井正利『子爵井上勝君小伝』, 吉田団輔「井上勝伝」『交通文化』7, 三崎重雄『鉄道の父井上勝』, 上田広『井上勝伝』, 『明治維新人名辞典』, 『日本人名大事典』

入江陳重→穂積陳重

岩永省一 (1852-1913.3.12. 滞在: 1870-76 〈ユニバーシティ・カレッジ [Iwanaja, S., 確認在籍: 1872-74]〉) 長崎県出身, 公費留学, 目的: 財政・金融, 出身校: 慶應義塾, 帰国後勤務先: 三菱会社→明治生命保険【資料】『太政類典』, 下村富士男『明治初年条約改正史の研究』, 『日本人名大事典』

岩屋虎之助→東郷愛之進

上野良太郎→町田久成

瓜生震 (1853.6.11-1920.7.9, 滞在: 1871.12.23-74 〈ユニバーシティ・カレッジ [Wuriu, R. F., 確認在籍: 1871-74]〉) 福井出身, 公費団体視察, 目的: 工学系, 帰国後勤務先: 工部省鉄道寮出仕【資料】『太政類典』, 『大正過去帳』, 『三菱社史』(8), 石附実『近代日本の海外留学生史』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『日本人名大事典』

遠藤謹助 (1836-1893.9.13, 滞在: 1863.5-66 〈ユニバーシティ・カレッジ [Endo Ko., 確認在籍: 1863-65]〉) 山口県萩出身, 公費留学, 目的: 財政・金融, 帰国後勤務先: 通商権正, 造幣権頭, 大蔵大丞, 大阪造幣局設立, 造幣局長【資料】『日本銀行百年史』(1), 石附実『近代日本海外留学生史』, 『明治維新人名辞典』, 『日本人名大事典』

大浦茂彦 (?-?, 滞在: 1879-80 〈ユニバーシティ・カレッジ [Oura, S., 確認在籍: 1879-80: W. S. Jevons, 1879-80]〉) 勤務先: 京城領事官外務通訳官

【資料】井上琢智「近代経済学導入の一齣—W. S. ジェヴォンズと七人の日本人留学生—」『大阪商業大学論集』54, 『職員録』(甲, 明治33年版)

大越成徳 (1854.12-1923, 滞在: 1876.5-85 〈ユニバーシティ・カレッジ [Okoshi, N., 確認在籍: 1877-80: W. S. Jevons, 1878-79]〉) 江戸出身, 在外勤務, 目的: 書記一等見習, 初勤務先: 外務省出仕, 帰国後勤務先: リヨン駐在領事→ロンドン駐在領事→総領事→横浜税関長→ブラジル駐在弁理公使→アルゼンチン駐在公使兼務【著作】『外国貿易拡張論』【資料】志立鉄次郎編『大越成徳遺稿』, 井上琢智「近代経済学導入の一齣—W. S. ジェヴォンズと七人の日本人留学生—」『大阪商業大学論集』54, 『日本外交史辞典』

大野直輔 (1841-1921.5.1, 滞在: 1868.3.3-73.2.2 〈ユニバーシティ・カレッジ [Ohno, K., 確認在籍: 1871-72: J. E. Cairnes, 1868-73]〉) 徳山出身, 公費留学 (三条公恭・中御門寛丸・毛利平六郎・森寺広三郎・城連・大野直輔・有福二郎・尾崎三良), 目的: 財政・金融 (経済学), 出身校: 明倫館, 帰国後勤務先: 大蔵省租税局出仕【資料】「廃藩以前旧長州藩人の洋行者」『防長史談会雑誌』1-6, 『太政類典』, 下村富士男『明治初年条約改正史の研究』, 『尾崎三良自叙略伝』, 『近世防長人名辞典』, 『近代防長人物誌』(天)

Okada, T. (確認在籍: 1888-89)

尾崎三良 (戸田三郎: 1842.1.22-1918.10.13, 滞在: 1868.3-73.10 〈ユニバーシティ・カレッジ [Toda, S., 確認在籍: 1870-71], オックスフォード大学 [アクワード教授]〉) 京都出身, 公費留学 (三条公恭・中御門寛丸・毛利平六郎・森寺広三郎・城連・大野直輔・有福二郎・尾崎三良), 目的: 全般・外交交渉, 初勤務先: 太政官出仕【資料】『尾崎三良自叙略伝』, 『維新前実歴談—講演速記録一』, 『公文録』, 『太政類典』, 『明治維新人名辞典』

乙骨兼三 (?-?, 滞在: ?-? 〈ユニバーシティ・カレッジ [Okkots, K., 確認在籍: 1875-76]〉) 儒者乙骨彦四郎の長男は太郎乙, 次男が亘, 弟が兼三で外交官【資料】「補巻年譜」『上田敏全集』, 安田保雄『上田敏研究』

音見清兵衛→河瀬真孝

香月経五郎 (1849-1874.4.13, 滞在: 1870.9.27-73 〈アメリカ [田尻稻次郎・目

賀田種太郎と同行] →ユニバーシティ・カレッジ [Katski, K., 確認在籍 : 1872-73] →オックスフォード大学 [経済学])) 肥前出身, 公費留学, 目的 : 財政・金融, 出身校 : 大学南校【資料】的野半介『江藤南白』, 『太政類典』, 石附実『近代日本海外留学生史』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『明治過去帳』, 『明治維新人名辞典』, 『日本人名大辞典』

Katsuno, K. (確認在籍 : 1880-81)

Kapadia, A. B. (確認在籍 : 1870-71)

亀井茲明 (1861.6.15-96.7.18. 滞在:1877-80 <ユニバーシティ・カレッジ [Kamei, K., 確認在籍 : 1878-80] →キングス・カレッジ [確認在籍 : 1877-78] →ベルリン大学 [1886-91])) 京都出身, 私費留学, 目的 : 人文系, 芸術, 帰国後勤務先 : 宮内庁御用掛外事課【資料】『海外における公家』, 『昭和新修 華族家系大成』, 『島根県大百事典』, 『明治過去帳』

河上謹一 (1856.3.23-1945.7.21, 滞在 : 1879.5.17-82.8 <ユニヴァーシティ・カレッジ [W. S. Jevons, 1879.10-80.2] →キングス・カレッジ)) 山口県出身, 公費留学, 目的 : 法律, 財政・金融, 出身校 : 東京大学, 初勤務先 : 農商務省御用掛【資料】井上十吉 “A Few Pages of My daiary” 『英語の日本』 9-1, 井上琢智「近代経済学導入の一齣— W. S. ジェヴォンズと七人の日本人留学生—」『大阪商業大学論集』 54, 『河上弘一回想録』, 一海知義『河上肇と中国の詩人たち』, 杉原四郎・一海知義『河上肇—芸術と人生—』, 井上琢智「日本学生会名簿」『馬場辰猪全集』 (4), 泰郁彦『戦前期日本官僚制の制度・組織・人事』, 渡辺実『近代日本海外留学史』

河瀬真孝 (音見清兵衛 : 1840.2.9-1919.10.29. 滞在 : 1867-71, 1871-73 <ユニバーシティ・カレッジ [Otori, K. S., 確認在籍 : 1872-73], 特命全権公使 [1884.11.10] →特命全権公使 [1889.11.20])) 山口出身, 公費留学, 目的 : 軍事, 帰国後勤務先 : 工部少輔【資料】林竹二『幕末の海外留学生』『著作集』 (4), 泰郁彦『戦前期日本官僚制の制度・組織・人事』, 『太政類典』, 『日本人名大事典』

Kawasaki, H. (確認在籍 : 1885-86)

菊池大麓（箕作：1855.1. -1917.8.20. 滞在：1866-68.6, 1870-77 〈ユニバーシティ・カレッジ・スクール [W. V. ロイド] →ユニバーシティ・カレッジ〉, 1884.7.22-85.6.21 〈ケンブリッジ大学 [St. John's College, 1873-77]・ユニバーシティ・カレッジ〉）江戸出身，公費留学，公費留学，公費個人視察，目的：理学（数学）系，帰国後勤務先：東京大学（2回目）【資料】「菊池大麓君」『東洋学芸雑誌』20，「菊池大麓君」『東洋学芸雑誌』35，「菊池大麓君」『東洋学芸雑誌』65，「菊池氏の談話」『東洋学芸雑誌』67，「嗚呼菊池大麓先生」『東洋学芸雑誌』432，窪田忠彦「菊池大麓先生と天野一丞先生」『科学』18-1，中山茂「菊池大麓のケンブリッジ時代について」『科学史研究』63，佐々醒雪等「浜尾総長と菊池総長」『中央公論』25-4，藤井泰「ケンブリッジ大学の日本人留学生（1873-1911）ーケンブリッジ大学側の資料ー」『松山大学論集』5-4，小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』，『公文録』，『太政類典』，唐沢富太郎『教育人物事典』，『日本人名大事典』

Kinnagei, N. （確認在籍：1880-81）

日下義雄（1851.12.25-1923.3.18, 滞在：1871.11-74.3, 1876.5-80.10 〈ユニバーシティ・カレッジ [Kusaka, Y., 確認在籍：1878-79：W. S. Jevons, 1878-79]〉）会津出身，公費留学，公費団体視察，目的：政治・経済，出身校：日新館，帰国後勤務先：紙幣寮七等出仕【資料】「会津先輩名士の逝去頻々ー日下義雄君小伝ー」『津会会報』22，中村孝也『日下義雄伝』，井上琢智「近代経済学導入の一齣ーW. S. ジェヴォンズと七人の日本人留学生ー」『大阪商業大学論集』54，横山雅男「『日下義雄伝』を読む」『統計学雑誌』515-516，『太政類典』，石附実『近代日本の海外留学史』，『日本人名大事典』

Kihara, M. （Kihard, M.：確認在籍：1879-81）

黒部鉦太郎（鉦太郎，?-?，滞在：1870-〈ユニバーシティ・カレッジ [Kurobe, H., 確認在籍：1875-77]〉）徳島県出身，公費留学，目的：軍事【資料】故目賀田男爵伝記編纂会『男爵目賀田種太郎』，『改正官員録』（明治10年版），『太政類典』，下村富士男『明治初年条約改正史の研究』，石附実『近代日本の海外留学史』

五代龍作 (1858.12.28-1938.10.7, 滞在: 1882.2.4. -85.5 〈ユニバーシティ・カレッジ〉) 和歌山県東牟婁郡本宮村出身, 公費留学, 目的: 工学 (機械工学) 系 〈ケデー [A. Kennedy] に師事〉, 出身校: 東京大学, 初勤務先: 東京大学教授【資料】「工学博士五代龍作氏略伝」『日本鉱業会誌』553, 『大日本博士録』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』

粕林之助 (?-1911.4.14, 滞在: 1868-73 〈ユニバーシティ・カレッジ [Koma, R., 確認在籍: 1868-72]〉) 福井出身, 公費留学, 目的: 工学系, 帰国後勤務先: 工部省鉱山寮六等出仕→佐渡鉱山局長【資料】『公文録』, 『太政類典』, 下村富士男『明治初年条約改正史の研究』, 『明治過去帳』

小室三吉 (1863 〈7〉-1921.10.18. 滞在: 1870?-1882? 〈ユニバーシティ・カレッジ・スクール→ユニバーシティ・カレッジ〉) 江戸出身, 私費留学, 目的: 経済学, 帰国後勤務先: 三井物産入社 (1884) →香港・上海・ロンドン各支店長→三井物産取締役【資料】山田立夫編『小室訥菴翁父子小伝』, 九和会『男爵桜井錠二遺稿一思出の数々』, 石附実『近代日本の海外留学史』, 『日本人名大事典』

Sasaki, T. (確認在籍: 1885-86)

桜井錠二 (1858.8.18-1939.1.26, 滞在: 1876.6.25. -81.9 〈ユニバーシティ・カレッジ [Sakurai, J.: 確認在籍: 1876-77, 1878-81]〉) 金沢出身, 公費留学, 目的: 理学 (化学) 系, 出身校: 東京開成学校, 初勤務先: 東京大学理学部講師【資料】九和会『男爵桜井錠二遺稿一思出の数々』, 大幸勇吉「桜井錠二先生を悼む」『科学』14-3, 「桜井錠二博士逝去」『日本金属学会誌』3-2, 『太類典』, 日本学士院『学問の山なみ』(1), 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 井上琢智「日本学生会名簿」『馬場辰猪全集』(4), 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『日本人名大事典』

Sakurai, K. (確認在籍: 1887-88)

佐々木和三郎 (?-?, 滞在: 1872 〈ユニバーシティ・カレッジ [Sasaki, W., 確認在籍: 1872-74]〉-) 山口県出身, 公費留学, 目的: 測量 (工部省) →鉱山局【資料】『工部省沿革報告』, 『官員録』(明治10年版), 『旧工部大学校史料』,

『明治過去帳』

鮫島尚信（誠蔵，野田仲平：1845.3.10-1880.12.4，滞在：1865.3-68.6〈ユニバーシティ・カレッジ [Noda, 確認在籍：1865-67：A. W. Williamson]〉）薩摩出身，公費留学，目的：法律，出身校：何礼之に師事，帰国後勤務先：外国官権判事【資料】鮫島文書研究会編『鮫島尚信在欧外交書簡』，林竹二『幕末の海外留学生』『著作集』（4），『鹿児島県史』（3），『薩藩海軍史』，犬塚孝明『薩摩藩英国留学生』，『太政類典』，石附実『近代日本の海外留学史』，渡辺実『近代日本海外留学生史』，『明治維新人名辞典』，『日本人名大事典』
沢井鉄馬→森有礼

三条公恭（東三条公恭：1853.12.18-1901.1.26．滞在：1867.3-72.11.29〈ユニバーシティ・カレッジ [Sanjo, J., 確認在籍：1870-71]〉，1874-）京都出身，私費留学（中御門寛丸・毛利平六・尾崎三良・森寺広三郎・城蓮・大野直輔・有福二郎を同行），私費留学，公費留学，私費留学，目的：英学修行【資料】『尾崎三良自叙略伝』，『太政類典』，『昭和新修 華族家系大成』（下），石附実『近代日本の海外留学史』，下村富士男『明治初年条約改正史の研究』

三宮義胤（1843.12.24-1905.8.14，滞在：1870-80.9〈ユニバーシティ・カレッジ [Sannomiya, Y., 確認在籍：1874-77：W. S. Jevons, 1875-77]〉）滋賀県出身，公費留学，目的：法律，帰国後勤務先：会計官判事補，外務省書記官【資料】井上琢智「近代経済学導入の一齣一 W. S. ジェヴォンズと七人の日本人留学生」『大阪商業大学論集』54，小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』，『太政類典』，下村富士男『明治初年条約改正史の研究』，『明治維新人名辞典』，『日本人名大事典』

塩田権之丞→町田申四郎

志道聞多→井上馨

清水兼次郎→町田清次郎

末松謙澄（1855.8.20-1920.10.6．滞在：1878-86〈ユニバーシティ・カレッジ [Suyematz, K., 確認在籍：1879-80] →ケンブリッジ大学 [Newnham College, 1881, M 1881 → St. John's College, 1881-84, LL. B. 欠席授与

1888])) 福岡県京都郡出身, 公費団体視察, 私費留学, 目的: 全般・外交交渉・人文系, 出身校: 大学南校, 帰国後勤務先: 正院御用掛→文部省参事官【著作】『日本文章論』, 『羅馬法典解説』【資料】無何有郷主人『伊藤博文附伊藤巳代治・末松謙澄』, 大田原在文『十大先覚記者伝』, 玉江彦太郎『若き日の末松謙澄—在英通信—』, 玉江彦太郎『青萍・末松謙澄の生涯』, 末松謙澄『青萍詩存』, 正村正義『ポーツマスへの道—黄渦論とヨーロッパの末松謙澄—』, 藤井泰「ケンブリッジ大学の日本人留学生 (1873-1911) —ケンブリッジ大学側の資料—」(SUYAMATZ Kenchio: 在籍確認)『松山大学論集』5-4, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 泰郁彦『戦前期日本官僚制の制度・組織・人事』, 『大政類典』, 『福岡県百科事典』, 『日本人名大事典』

杉浦弘蔵→畠山義成

杉浦重剛 (1855-1924.2.13. 滞在: 1876.6.25-80.5.18 〈サイレンセスター農学校 [1876.8.18-76.9] →オウエンス・カレッジ [1876.12-] →サウス・ケンジントン化学学校 [78.10-] →ユニバーシティ・カレッジ [Sugura, S., 確認在籍: 1879-80])) 滋賀県膳所出身, 公費留学, 目的: 理学 (化学) 系, 出身校: 東京開成学校, 帰国後勤務先: 東京大学理科博物場掛取締【著作】『日本教育原論』, 『日本通鑑』, 明治教育史研究会『杉浦重剛全集』【資料】大町桂月『杉浦重剛先生』, 回想杉浦重剛編集委員会『回想杉浦重剛—その生涯と業績—』, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 唐沢富太郎『教育人物辞典』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『太政類典』, 井上琢智「日本学生会名簿」『馬場辰猪全集』(4), 『日本人名大事典』

関谷清景 (1855-1896.1.9, 滞在: 1876.6.25-1881 〈病氣帰国・1877 年説あり: ユニバーシティ・カレッジ [Sekuja, K.: 確認在籍: 1876-77])) 岐阜県大垣出身, 公費留学, 目的: 工学系, 出身校: 東京開成学校工学本科, 初勤務先: 東京大学助教授【資料】田口竜雄「関谷清景伝」『天気と気象』7-7, 橋本万平「関谷清景博士のこと」『日本古書通信』29-8, 橋本万平『地震学事始—開拓者・関谷清景の生涯—』, 『太政類典』, 藤井陽一郎『日本の地震学—その歴史的展望と課題—』井上琢智「日本学生会名簿」『馬場辰猪全集』(4),

『東京大学百年史』, 『日本人名大事典』

添田寿一 (1864.8.15-1929.7.4. 滞在：1884.9-87.8 〈ユニバーシティ・カレッジ [Soyeda, J., 確認在籍：1884-85] →ケンブリッジ大学 [Soyeda Juichi, 確認在籍：Newnham Colleg, L 1885] →ハイデルベルク大学〉) 福岡出身, 私費留学, 目的：財政・金融, 出身校：東京大学法学部政治学科, 初勤務先：大蔵省主税局御用掛, 帰国後勤務先：大蔵省主税官【資料】広渡四郎『添田寿一君小伝』, 遠間平一郎「興銀総裁添田寿一」『財界一百人』, 大輪董郎『財界の巨人』, 横山雅男「添田博士の長逝を悼む」『統計学雑誌』517, 西川俊作『福沢諭吉と三人の後進たち』, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 杉原四郎「添田寿一」『日本のエコノミスト』, 泰郁彦『戦前期日本官僚制の制度・組織・人事』, 『日本人名大事典』

高見弥一 (松元誠一：1834-?, 滞在：1865.3-66.6 〈ユニバーシティ・カレッジ [Massumutta, 確認在籍：1865-66：A. W. Williamson]〉) 薩摩出身, 公費留学, 目的：海軍測量術, 出身校：薩摩開成校【資料】『鹿児島県史』, 『薩摩海軍史』, 犬塚孝明『薩摩藩英国留学生』

田口太郎 (1841.4.27-1923.4.20, 滞在：1869-73 〈ユニバーシティ・カレッジ [Takuchi, T., 確認在籍：1870-71]〉) 広島出身, 公費留学, 目的：工学系, 出身校：開成所, 帰国後勤務先：大蔵省造幣寮技師【資料】『広島県人名事典』, 石附実『近代日本の海外留学史』, 『明治維新人名辞典』, 『日本人名大事典』

Tadashi, S. (確認在籍：1879-80)

田中静洲 (盛明, 朝倉省吾：1843.11.23-1924.1.24. 滞在：1865.3-67.7 〈ユニバーシティ・カレッジ [Aysakata, 確認在籍：1865-66：A. W. Williamson]〉) 鹿児島県出身, 公費留学, 目的：医学系, 出身校：鹿児島開成所, 初勤務先：鹿児島開成所教師【資料】『鹿児島県史』, 『薩摩海軍史』, 犬塚孝明『薩摩藩英国留学生』, 藤原寅勝『明治以降の生野鉦山史』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『幕末維新人名辞典』

東郷愛之進 (岩屋虎之助：1842-1868.7.8. 滞在：1865.3-66.6 〈ユニバーシティ・カレッジ [Cvaya, 確認在籍：1865-66：A. W. Williamson]〉) 薩摩出身, 公

費留学, 目的: 工学 (海軍機械術) 系, 出身校: 鹿児島開成所【資料】『鹿児島県史』, 『薩摩海軍史』, 犬塚孝明『薩摩藩英国留学生』, 『幕末維新人名辞典』
徳川義礼 (1863.9-1908.5.16. 滞在: 1884.9-87 〈ユニバーシティ・カレッジ
[Tokugawa, Y. A., 確認在籍: 1884-85, 1886-87]〉) 高松出身, 私費留学,
目的: 人文系【資料】『明治過去帳』

戸田三郎→尾崎三良

豊原百太郎 (1849.10-1884.1.26, 滞在: 1871.4-74 〈ユニバーシティ・カレッジ
[Toyohara, H., 確認在籍: 1871-74]〉) 佐賀県出身, 公費留学 (井上勝之助・
岡林篤馬・木戸正之助・長松修蔵・正木退蔵・山口武らと同行), 目的: 応用
化学, 帰国後勤務先: 大蔵省造幣寮六等出仕【資料】『造幣局百年史』 (資料
編), 『北大百年史』, 下村富士男『明治初年条約改正史の研究』, 石附実『近
代日本の海外留学史』, 『明治過去帳』

永井五百助→吉田清成

Nakabara, T. (確認在籍: 1875-76)

中村宗見 (博愛, 吉野清左衛門: 1843.11-1902, 滞在: 1865-68, 1869.6-70.7 〈ユ
ニバーシティ・カレッジ [Yosino, 確認在籍: 1865-66: A. W. Williamson]〉)
薩摩出身, 公費留学, 公費団体視察, 目的: 理学 (化学) 系, 出身校: 薩摩開成
所, 帰国後勤務先: 開成所フランス語教師【資料】『国之礎』, 『鹿児島県史』,
『薩摩海軍史』, 『公文録』, 『太政類典』, 犬塚孝明『薩摩藩英国留学生』,
渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『幕末維新人名辞典』, 『日本現今人名
辞典』

名越平馬 (三笠政之助: 1845-?, 滞在: 1865.3-66.6 〈ユニバーシティ・カレッ
ジ [Verikasa, 確認在籍: 1865-66: A. W. Williamson]〉) 薩摩出身, 公費留
学, 目的: 陸軍大砲術【資料】『鹿児島県史』, 『薩摩海軍史』, 犬塚孝明『薩
摩藩英国留学生』

野田仲平→鮫島尚信

野村弥吉→井上勝

野呂景義 (1854-1923.9.8. 滞在: 1885.5-89.5 〈ユニバーシティ・カレッジ [Noro,

K., 確認在籍：1885-86] →フライブルク鉱山大学)) 名古屋出身, 私費留学, 目的：工学（冶金）系, 出身校：東京大学理学部採鉱冶金学科初勤務先：東京大学准教授→帝国大学工科大学教授【資料】「故工学博士野呂景義君の略伝」『日本工業会誌』463, 飯田賢一『日本人と鉄』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『大日本博士録』

橋直輔→村橋直衛

畠山義成（丈之助, 杉浦弘蔵:1843-76.10.20, 滞在:1865-71.4〈ユニバーシティ・カレッジ [Soogioora, 確認在籍：1865-66, Soogevoola, 確認在籍：1866-67: A. W. Williamson〉, 1871.12-73.9, 1876.4] →ラトガース大学) 薩摩出身, 公費留学, 公費団体視察, 目的：語学, 陸軍学, 帰国後勤務先：外務省三等書記官【著作】『米欧回覧実記』【資料】『鹿児島県史』, 『薩摩海軍史』, 林竹二『幕末の海外留学生』『著作集』(4), 後藤純郎「畠山義成の後半生」『日本大学人文科学研究所紀要』29, 犬塚孝明『薩摩藩英国留学生』, 『公文録』, 『太政類典』, 『明治維新人名辞典』, 『日本人名大事典』

八田裕次郎 (1849.11.17-1930.1.23, 滞在:1871.2-81.5, 1884.4.27-90〈ユニバーシティ・カレッジ [Hatchidda, E., 確認在籍：1878-79]〉) 福井出身, 公費留学, 公費個人視察, 目的：軍事, 出身校：海軍兵学寮【資料】『公文録』, 『太政類典』, 『海軍兵学校沿革史』, 下村富士男『明治初年条約改正史の研究』, 日本近代史料研究会『日本陸海軍の制度・組織・人事』

馬場辰猪 (1850.5.15-88.11.1, 滞在:1870.7.21-74.12〈ユニバーシティ・カレッジ [Baba, T., 確認在籍：1871-72]〉), 1875.8-78.5.11, 1886-88) 高知出身, 公費留学, 私費留学, 私費団体視察, 目的：法律, 出身校：致堂館, 慶応義塾, 帰国後勤務先：共存同衆設立【著作】『法律一斑』, 『天賦人權論』, 『馬場辰猪全集』【資料】安永梧郎『馬場辰猪』, 萩原延寿『馬場辰猪』, 西田長寿『馬場辰猪小伝』, 住谷申一「馬場辰猪年譜について」『人文学』30, 『太政類典』, 『高知県人名大事典』, 『近代日本哲学思想家辞典』, 『国史大辞典』, 『日本人名大事典』

原田宗助 (1848.9-1909.9.25, 滞在:1871-77〈ユニバーシティ・カレッジ [Harada,

S. 確認在籍：1872-73], 1886.7.13-87.6.30), グリニッジ海軍大学校, アームストロング会社製鉄工場) 鹿児島出身, 公費留学, 公費団体視察, 目的：軍事, 工学（造兵製鉄技術）系, 出身校：海軍兵学寮, 初勤務先：鉄道技手, 帰国後勤務先：海軍省出仕【資料】『太政類典』, 『官吏進退索引』, 下村富士男『明治初年条約改正史の研究』, 石附実『近代日本の海外留学史』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『明治過去帳』, 『日本人名大事典』

福沢英之助（和田慎次郎：1847-1900.1.8. 滞在：1866.10-68.6〈ユニバーシティ・カレッジ・スクール [W. V. ロイド]〉）中津出身, 公費留学, 帰国後勤務先：岡山で中学校教師→貿易業→『郵便報知新聞』社員【資料】原平三「徳川幕府の英国留学生一幕末留学生の研究」『歴史地理』79-5, 林董『後は昔の記』, 丸山信編『福沢諭吉とその門下書誌』

福富孝季（1857.11-91.4.9, 滞在：1886.8-88.6〈ユニバーシティ・カレッジ [Fukutomi T., 確認在籍：1887-88]〉）土佐出身, 私費留学, 目的：人文（心理学・哲学・教育）系, 出身校：致道館, 東京大学文学部, 初勤務先：東京師範学校教諭, 帰国後勤務先：高等師範学校教授【資料】陸実編刊『臨淵言行録』, 『明治過去帳』, 『大日本人名辞典』

藤沢利喜太郎（1861.4-1933.12.23. 滞在：1883.3.17-87.5〈ユニバーシティ・カレッジ [Fujisawa, R., 確認在籍：1883-84：リチャード・ロー師事]→ストラスブルグ大学→ベルリン大学）新潟県佐渡出身, 公費留学, 目的：数学, 物理学, 出身校：東京大学物理学科, 帰国後勤務先：帝国大学教授【資料】『藤沢博士遺文集』, 『藤沢博士追想録』, 「藤沢利喜太郎君」『東洋学芸雑誌』68, 窪田忠彦「藤沢利喜太郎先生の業績」『東京女子大論集』2-1, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 『日本の数学百年史』, 日本学士院『学問の山なみ』(1), 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『教育人名辞典』, 『日本人名大事典』

藤本磐造（盤蔵, ?-1877.5.18, 滞在：1870-73〈ユニバーシティ・カレッジ [Fugimoto, B., 確認在籍：1868-71]〉）山口出身, 公費留学（毛利富士四郎・福原芳山・河瀬安四郎に同行）, 目的：工学系, 帰国後勤務先：工部省長崎造船局出仕【資料】『工部省沿革報告』, 『太政類典』, 日本英学史学会編『英語事

始』, 下村富士男『明治初年条約改正史の研究』, 石附実『近代日本の海外留学史』

穂積陳重 (入江：1856.7.11-1926.4.7. 滞在：1876.6.25-81 〈ミドル・テンブル入学 [1876.11.7 〈20歳〉] →資格取得 [1879.6.25]・キングス・カレッジ入学 [1876.11.7, Iriye Nobushige] →ユニバーシティ・カレッジ [Iriye, N., 確認在籍：1878-79] →ベルリン大学〉) 愛媛県宇和島出身, 公費留学, 目的：法律, 出身学校：東京開成学校, 帰国後勤務先：東京大学法学部講師→東京大学教授【著作】『法律進化論』【資料】島田次郎「ロンドン大学キングスカレッジとミドル・テンブルを訪ねて」『中大百年史編纂ニュース』3, 島田次郎「ミドル・テンブルと日本人留学生覚書」『中大百年史編纂ニュース』5, 穂積陳重『法窓夜話』, 「穂積陳重の渡英日記」『書斎の窓』31-32, 穂積重遠編『穂積陳重遺文集』, 『穂積歌子日記—1890-1906—』, 穂積重遠『父を語る』, 南条文雄『懐旧録』, 九和会『男爵桜井錠二遺稿—思出の数々—』『太政類典』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 井上琢智「日本学生会名簿」『馬場辰猪全集』4, 『大正過去帳』, 『日本人名大事典』

堀鉞之丞 (1862.1-?, 滞在：1885.9-90 〈ユニバーシティ・カレッジ [Hori, E., 確認在籍：1885-87]〉) 名古屋出身, 私費留学, 目的：理学 (化学) 系, 出身校：東京大学理学部, 帰国後勤務先：衛生試験所技師【資料】『日本現今人名辞典』

堀江帰一 (1876.4.27-1927.12.9, 滞在：1899.8.4-1902.7.9, 1910.4-11 〈ハーバード大学→ユニバーシティ・カレッジ→ベルリン大学〉) 東京出身, 私費留学, 目的：工学系, 出身校：慶應義塾大学部理財科, 帰国後勤務先：時事新報社→慶應義塾大学部理財科主任【資料】『堀江帰一全集』, 『慶應義塾百年史』 (中巻前), 『大日本博士録』, 『日本人名大事典』

Honda, K. C. (確認在籍：1875-76)

正木退蔵 (1845-96, 滞在：1871, 1876.6 〈ユニバーシティ・カレッジ [Masaki, T., 確認在籍：1872-74, 1876-77, 1878-80]〉-) 山口出身, 公費留学 (井上勝之助・岡林篤馬・木戸正之助・豊原百太郎・長松修蔵・山口武らと同行), 公

費個人視察, 目的: 理学 (化学・造幣) 系, 留学生取締, 出身校: 松下村塾, 帰国後勤務先: 東京職工学校長【資料】『太政類典』, 『近世防長人名辞典』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『明治過去帳』

益田英作 (1865.3-?, 滞在: 1877 〈ユニバーシティ・カレッジ〉-) 江戸出身, 私費留学, 目的: 経済, 出身校: 慶應義塾【資料】五十嵐栄吉『大正人名辞典』

町田申四郎 (実績, 塩田権之丞: 1847-?. 滞在: 1865.3-66.6 〈ユニバーシティ・カレッジ [Sevota, 確認在籍: 1865-66: A. W. Williamson]〉) 薩摩出身, 公費留学, 目的: 海軍技術, 出身校: 薩摩開成所【資料】『鹿児島県史』, 『薩摩海軍史』, 犬塚孝明『薩摩藩英国留学生』, 『明治維新人名辞典』, 『日本人名大事典』

町田清次郎 (清蔵, 実行, 清水兼次郎: 1851-?. 滞在: 1865.3-66.6 〈ユニバーシティ・カレッジ [Suimdsa, 確認在籍: 1865-66: A. W. Williamson]〉) 薩摩出身, 公費留学, 目的: 造船学, 出身校: 薩摩開成所【資料】『鹿児島県史』, 『薩摩海軍史』, 犬塚孝明『薩摩藩英国留学生』, 『明治維新人名辞典』, 『日本人名大事典』

町田久成 (民部, 上野良太郎: 1838.1-1897.9.13. 滞在: 1865.3.22-68.6 〈ユニバーシティ・カレッジ [Wooyeno, 確認在籍: 1865-66: A. W. Williamson]〉) 薩摩出身, 公費留学, 目的: 全般・外交交渉 (留学生監督), 出身校: 昌平黉, 帰国後勤務先: 参与兼外国事務局判事【資料】『故町田久成君洋行日記一薩摩藩慶応年間洋航記事一』, 島津編輯所『町田久成略伝』, 『薩摩海軍史』, 犬塚孝明『薩摩藩英国留学生』, 『明治維新人名辞典』, 『日本人名大事典』

松浦厚 (1864.6-1934.5.7. 滞在: 1884-93 〈ユニバーシティ・カレッジ [Matsura, A., 確認在籍: 1887-89]〉) →ケンブリッジ大学 [Trinity College, 1890-?, M 1890]〉) 長崎県平戸出身, 私費留学, 目的: 国際法【資料】松浦伯爵家編修所『松浦厚伯伝詩文鈔』, 藤井泰「ケンブリッジ大学の日本人留学生 (1873-1911) —ケンブリッジ大学側の資料—」『松山大学論集』5-4, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 『海外における公家』, 『華族家系大成』, 『日本人名大事典』

Mattumutta (確認在籍: 1865-66)

松村淳蔵→市来勘十郎

松元誠一→高見弥一

真辺戒作 (1848.3.26-1897.5.20. 滞在：1870.1-78 〈ユニバーシティ・カレッジ [Manabe, K., 確認在籍：1873-74, 1875-76]〉) 高知県出身, 公費留学, 目的：法律【資料】下村富士男『明治初年条約改正史の研究』, 『高知県人名事典』, 石附実『近代日本の海外留学史』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』

三笠政之助→名越平馬

箕作大六→菊池大麓

Minami (確認在籍：1865-67)

陸奥広吉 (1869.3-1942.11.19. 滞在：1887-93 〈ユニバーシティ・カレッジ [Mutsu, H., Yokio, 確認在籍：1887-88]〉→ケンブリッジ大学〈[Trinity Hall, 1888.10-12→所属無, 1890]〉→インナー・テンプル) 彦根出身, 私費留学, 目的：法律 (barrister at law 〈1893.11.17〉), 出身学校：東京大学法学部, 帰国後勤務先：東京大学講師, 代言人→英吉利法律学校 (中央大学) 創立参加, 臨時駐英大使 (1907) 【資料】都市問題研究会鎌倉班「陸奥広吉と同人会」『思想の科学』1926.1, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 下重暁子『純愛—エセルと陸奥家の人々—』, 『日本人名大事典』

村橋直衛 (久成, 橋直輔：1840-92.9.25. 滞在：1865.3-66.5 〈ユニバーシティ・カレッジ [Haysa, 確認在籍：1865-66：A. W. Williamson]〉) 薩摩出身, 公費留学, 目的：海軍学術→陸軍学術, 帰国後：戊辰戦争参加, 北海道官有物払い下げ事件発覚直前不明, 雲水【資料】『鹿児島県史』, 『薩摩海軍史』, 犬塚孝明『薩摩藩英国留学生』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『明治過去帳』

村地才一郎 (?-?. 滞在：1871-73 〈ユニバーシティ・カレッジ [Muraji, Joe, 確認在籍：1870-72]〉) 佐賀県出身, 公費留学 (刑部省派遣), 目的：法律, 出身校：大学南校【資料】『太政類典』, 石附実『近代日本の海外留学史』

森有礼 (金之丞, 沢井鉄馬：1847.8-1889.2.12. 滞在：1865.3-68.6 〈ユニバーシティ・カレッジ [Savai, 確認在籍：1865-66：W. Williamson]〉, 1870-73.7,

1879-84, 特命全権大使 (1885-) 薩摩出身, 公費留学, 目的: 工学系, 出身校: 造士館, 鹿児島開成所, 初勤務先: 外国官権判事【著作】大久保利謙編『森有禮全集』【資料】徳富猪一郎『森有礼君』, 海門山人『森有礼』, 『鹿児島県史』, 『薩摩海軍史』, 『太政類典』, 犬塚孝明『薩摩藩英国留学生』, 犬塚孝明『若き森有礼一東と西の狭間で一』, 『明治維新人名辞典』, 『日本人名大事典』

森甚五兵衛 (甚五郎, 1851.5.29-1915.11.25. 滞在: 1870-74 (ユニバーシティ・カレッジ [Mori, J. T., 確認在籍: 1872-73])) 徳島県出身, 公費留学, 目的: 航海術, 出身校: 大学南校, 帰国後勤務先: 工部省【資料】藤井喬『阿波人物誌』, 『公文録』, 『太政類典』, 下村富士男『明治初年条約改正史の研究』, 石附実『近代日本の海外留学史』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』

山尾庸三 (1837.10.8-1917.12.22. 滞在: 1863.5-70 (ネィピア造船所徒弟→ユニバーシティ・カレッジ [Yamarou, Y., 確認在籍: 1863-65] →アンダーソン・カレッジ [グラスゴウ大学] 夜学) 山口出身, 公費留学, 目的: 工学系, 出身校: 明倫館, 帰国後勤務先: 民部権大丞・横須賀製鉄所事務取扱→工学寮 (工部大学校) 創立【資料】三好信浩「山尾庸三—国際日本を拓いた先駆者Ⅲ—」『〈明治学院大学国際学部〉国際学研究』3, 北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 『明治維新人名辞典』, 『日本人名大事典』

山口武 (1853.3-?, 滞在: 1871-75 (ユニバーシティ・カレッジ [Yamaguchi, T., 確認在籍: 1872-74])) 神戸出身, 公費留学, 目的: 理学 (化学) 系, 帰国後勤務先: 大蔵省造幣局八等技手【資料】『改正官員録』 (明治 17 年版), 下村富士男『明治初年条約改正史の研究』, 石附実『近代日本の海外留学史』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 古林亀治郎『現代人名辞典』

山辺丈夫 (1851.12.8-1920.5.14. 滞在: 1877-80 (ユニバーシティ・カレッジ [Yamanobe, T., 確認在籍: 1875-76, 1878-79: W. S. Jevons, 1878-79] →キングス・カレッジ→マンチェスター [1879.8.2-80.5])) 津和野出身, 私費留学, 目的: 経済・工学系, 出身校: 育英社, 慶應義塾, 初勤務先: 大阪紡績

業会社支配人【資料】石川次郎『孤山の片影』, 庄司乙吉『山辺丈夫君小伝』, 宇野米吉『山辺丈夫君小伝』, 山辺定子編『須磨の松風』, 『名流列伝』, 宮本又次『大阪商人太平記—明治中期—』, 『日本財界人物列伝』, 井上琢智「近代経済学導入の一齣—W. S. ジェヴォンズと七人の日本人留学生—」『大阪商業大学論集』54, 井上琢智「日本学生会名簿」『馬場辰猪全集』(4), 『明治維新人名辞典』, 『日本人名大事典』

Yamamoto, Y. H. (確認在籍：1881-82)

吉田清成 (巳之次・巳之治, 巳二, 永井五百助, Nagai : 1845.3-1891.8.3. 滞在：1864.3-71.1, 1872.2. -73.8.8 〈ユニバーシティ・カレッジ [確認在籍：1865-67 : A. W. Williamson] →ラトガース大学〉) 薩摩出身, 公費留学, 公費団体視察, 目的：政治・経済, 出身校：鹿児島開成所, 初勤務先：大蔵省出仕【資料】『吉田清成関係文書』(1-), 思文閣出版, 1993-, 『鹿児島県史』, 『薩摩海軍史』, 『太政類典』, 林竹二『幕末の海外留学生』『著作集』(4), 犬塚孝明『薩摩藩英国留学生』, 石附実『近代日本の海外留学史』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『明治維新人名辞典』, 『日本人名大事典』

吉田顕三 (英就：1848.4.8-1924.3.1. 滞在：1872.3-78.7.14 〈ユニバーシティ・カレッジ医学部 [Yoshida, H., 確認在籍：1873-74, 1875-76]〉) 広島出身, 公費留学, 目的：医学, 出身校：西周, 初勤務先：海軍省十等出仕, 帰国後勤務：海軍軍医少監→海軍病院長→大阪医学校長兼病院長【資料】『太政類典』, 『広島県人名辞典』, 石附実『近代日本の海外留学史』, 『日本人名大事典』

吉田伴七郎 (伴太郎：?-?. 滞在：?-? 〈ボストン [1870] →ユニバーシティ・カレッジ [Yoshida, H., 確認在籍：1872-73]〉) 薩摩出身, 公費留学【資料】下村富士男『明治初年条約改正史の研究』, 石附実『近代日本の海外留学史』, 渡辺実『近代日本留学生史』

吉野清左衛門→中村宗見

和田慎次郎→福沢英之助

渡辺菫蔵 (天野清三郎：1843-1939.9.7. 滞在：1866-74 〈ユニバーシティ・カレッジ [Amano, S., 確認在籍：1869-70]〉) 山口県萩出身, 私費留学, 目的：

造船学, 出身校: 松下村塾, 帰国後勤務先: 工部省出仕【資料】金子久一『松蔭門下最後の生存者渡辺蒿蔵翁語る』, 『近世防長人名辞典』, 『吉田松陰全集』(10), 『太政類典』, 沼田哲他偏『元田永孚関係文書』, 石附実『近代日本の海外留学史』, 渡辺実『近代日本留学生史』

2. キングス・カレッジ在籍者・卒業者

井上十吉 (1862-1929.4.7. 滞在: 1873-82 〈ラグビー校→キングス・カレッジ [確認在籍: 1879-80] →王立鉱山学校 [1882-]〉) 徳島出身, 私費留学 (桜井錠二と親交), 目的: 工学 (採鉱学) 系, 英語辞書【資料】“A Few Pages of My Diary”『英語の日本』9-1, 木村喜吉『和魂洋才の若ものたち—日本の留学生—』, 石附実『近代日本の海外留学史』, 井上琢智「日本学生会名簿」『馬場辰猪全集』(4), 『日本人名大事典』

岡村輝彦 (1855.12-1916.2.1. 滞在: 1876.6.25-81 〈キングス・カレッジ入学 [1876.11.7]・ミドル・テンプル入学 [1876.11.7 (20歳)]〉→資格取得 [1880.26] 1.)) 京都 (東京) 出身, 公費留学, 目的: 法律, 出身学校: 東京開成学校, 帰国後勤務先: 司法省民事局出仕→英吉利法律学校 (中央大学) 創立参加【資料】島田次郎「ロンドン大学キングスカレッジとミドル・テンプルを訪ねて」『中大百年史編纂ニュース』3, 島田次郎「ミドル・テンプルと日本人留学生覚え書」『中央大学百年史編集ニュース』5, 『太政類典』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 井上琢智「日本学生会名簿」『馬場辰猪全集』(4), 『日本人名大事典』

亀井茲明 (1861.6.15-96.7.18. 滞在: 1877-80 〈ユニバーシティ・カレッジ [Kamei, K., 確認在籍: 1878-80] →キングス・カレッジ [確認在籍: 1877-78] →ベルリン大学 [1886-91]〉) 京都出身, 私費留学, 目的: 人文系, 芸術, 帰国後勤務先: 宮内庁御用掛外事課【資料】『海外における公家』, 『昭和新修 華族家系大成』, 『島根県大百事典』, 『明治過去帳』

河上謹一 (1856.3.23-1945.7.21, 滞在: 1879.5.17-82.8 〈ユニヴァーシティ・カレッジ: W. S. Jevons, 1879.10-80.2 →キングス・カレッジ〉) 山口県出身,

公費留学, 目的: 法律, 財政・金融, 出身校: 東京大学, 初勤務先: 農商務省御用掛【資料】井上十吉 “A Few Pages of My daiary” 『英語の日本』 9-1, 井上琢智「近代経済学導入の一齣— W. S. ジェヴォンズと七人の日本人留学生—」『大阪商業大学論集』 54, 『河上弘一回想録』, 一海知義『河上肇と中国の詩人たち』, 杉原四郎・一海知義『河上肇—芸術と人生—』, 井上琢智「日本学生会名簿」『馬場辰猪全集』 (4), 泰郁彦『戦前期日本官僚制の制度・組織・人事』, 渡辺実『近代日本海外留学史』

向坂兌 (?-?. 滞在: 1876.6.25-81.7 <ミドル・テンプル入学 [1876.11.7 <21歳>] →資格取得 [1879.6.25]・キングス・カレッジ入学 [1876.11.7, Sagisaka Nanshi]>)) 栃木県館林出身, 公費留学, 目的: 法律, 出身学校: 東京開成学校, 帰国後勤務先: 直後死亡【資料】島田次郎「ロンドン大学キングスカレッジとミドル・テンプルを訪ねて」『中大百年史編纂ニュース』 3, 島田次郎「ミドル・テンプルと日本人留学生覚え書」『中央大学百年史編集ニュース』 5, 『太政類典』, 井上琢智「日本学生会名簿」『馬場辰猪全集』 (4)

中上川彦次郎 (1854 <8.13>-1901.10.7. 滞在: 1874 <10.13>-77.12 <キングス・カレッジ [確認在籍: 1874-75: Leon Levi]>)) 中津出身, 私費留学, 目的: 社会事情, 経済学 (菊池大麓の世話), 出身校: 慶應義塾, 帰国後勤務先: 工部省出仕→外務省→『時事新報』社創立【資料】『中上川彦次郎伝記資料』, 『中上川彦次郎伝』, 石附実『近代日本の海外留学生史』, 『日本人名大事典』

原保太郎 (1847.7-1936.11.2. 滞在: 1871-76 <ラトガース大学→キングス・カレッジ [確認在籍: 1874-75: Leon Levi]>)) 京都出身, 公費留学, 目的: 人文系, 帰国後勤務先: 山口県知事, 福島県知事【資料】『太政類典』, 原邦造編刊『原六郎翁伝』, 歴代知事編纂会編刊『日本の歴代知事』 (1), 石附実『近代日本の海外留学史』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 泰郁彦『戦前期日本官僚制の制度・組織・人事』, 井上琢智「日本学生会名簿」『馬場辰猪全集』 (4)

原六郎 (長政: 1842.11.9-1933.11.14. 滞在: 1871-77 <エール大学→キングス・カレッジ夜間部 [確認在籍: 1874-75: Leon Levi]>)) 但馬国出身, 公費留学, 目的: 軍事, 財政・金融 (経済学), 出身校: 青谿書院, 帰国後勤務先: 大蔵省

出仕【資料】原邦造編刊『原六郎翁伝』,『日本財界人物列伝』,『太政類典』,『明治維新人名辞典』,井上琢智「日本学生会名簿」『馬場辰猪全集』(4),『日本人名大事典』

穂積陳重(入江:1856.7.11-1926.4.7. 滞在:1876.6.25-81〈ミドル・テンブル入学[1876.11.7〈20歳〉]→資格取得[1879.6.25]・キングス・カレッジ入学[1876.11.7, Iriye Nobushige]→ユニバーシティ・カレッジ[Iriye, N., 確認在籍:1878-79]→ベルリン大学)愛媛県宇和島出身,公費留学,目的:法律,出身学校:東京開成学校,帰国後勤務先:東京大学法学部講師→東京大学教授【著作】『法律進化論』【資料】島田次郎「ロンドン大学キングスカレッジとミドル・テンブルを訪ねて」『中大百年史編纂ニュース』3,島田次郎「ミドル・テンブルと日本人留学生覚書」『中大百年史編纂ニュース』5,穂積陳重『法窓夜話』,「穂積陳重の渡英日記」『書斎の窓』31-32,穂積重遠編『穂積陳重遺文集』,『穂積歌子日記—1890-1906—』,穂積重遠『父を語る』,南条文雄『懐旧録』,九和会『男爵桜井錠二遺稿—思出の数々—』『太政類典』,渡辺実『近代日本海外留学生史』,井上琢智「日本学生会名簿」『馬場辰猪全集』(4),『大正過去帳』,『日本人名大事典』

山辺丈夫(1851.12.8-1920.5.14. 滞在:1877-80〈ユニバーシティ・カレッジ[Yamanobe, T., 確認在籍:1875-76, 1878-79:W. S. Jevons, 1878-79]→キングス・カレッジ→マンチェスター[1879.8.2-80.5])津和野出身,私費留学,目的:経済・工学系,出身校:育英社,慶應義塾,初勤務先:大阪紡績業会社支配人【資料】石川次郎『孤山の片影』,庄司乙吉『山辺丈夫君小伝』,宇野米吉『山辺丈夫君小伝』,山辺定子編『須磨の松風』,『名流列伝』,宮本又次『大阪商人太平記—明治中期—』,『日本財界人物列伝』,井上琢智「近代経済学導入の一齣—W. S. ジェヴォンズと七人の日本人留学生—」『大阪商業大学論集』54,井上琢智「日本学生会名簿」『馬場辰猪全集』(4),『明治維新人名辞典』,『日本人名大事典』

和田垣謙三(1860.7.14-1919.7.18. 滞在:1880.10.31-84.3〈キングス・カレッジ→ケンブリッジ大学[Wadagaki Kenzo, 確認在籍:Newnham College,

J.1882] →ベルリン大学)) 但馬国豊岡出身, 私費留学, 公費留学, 目的: 理財学, 出身学校: 東京大学文学部, 帰国後勤務先: 文部省御用掛→東京帝国大学教授【著作】『英和辞典』, 『世界商業史』【資料】渋木直一編『吐雲余影』, 山本生「嗚呼和田垣博士」『改造』1-5, 田中貢太郎「自由伯と吐雲博士の印象」『中央公論』34-9, 神戸正雄「和田垣・内田博士の永眠を悼む」『経済論叢』9-3, 河津暹「和田垣博士の薨去」『国家学会雑誌』33-8, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 『太政類典』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『大正過去帳』, 『日本人名大事典』cf. 1880年11月に森有礼は「和田垣謙三にジェヴォンズの経済学〈講義〉を受けるように勧める」(犬塚孝明『若き森有礼』399)

3. ロンドン大学¹⁵⁾

朝吹常吉 (1878.5-1955.3.10, 滞在: 1896-98) 大分県下毛郡出身, 私費留学, 目的: 財政・金融, 出身校: 慶應義塾大学部理財科, 帰国後勤務先: 日本銀行計算課勤務【資料】実業之世界社『財界物故傑物伝』(上), 『大正人名辞典』, 『日本人名大事典』

犬塚武夫 (1872.1-?. 滞在: 1902.1-05 〈ケンブリッジ大学→ロンドン大学〉) 福岡市京都郡出身, 私費留学, 目的: 経済 (経済学・商業学), 出身校: 高等商業学校, 帰国後勤務先: 大蔵省出仕, 帰国後勤務先: 第一銀行行員【資料】五十嵐栄吉『大正人名辞典』, 古林亀治郎『現代人名辞典』

植原悦次郎 (1877.5-1962.12.2, 滞在: 1899-1911 〈ワシントン大学→ロンドン大学〉) 長野県安曇郡出身, 自主渡航, 目的: 財政・金融, 出身学校: 外国, 初勤務先: 明治大学【著作】『日本民権発達史』, 『新政日本と民主主義の哲理』【資料】鈴木正節『大正デモクラシーの群像』, 『日本人名大事典』, 『国史大辞典』

15) この「ロンドン大学」の項に列挙した人名は、資料上の制約から、その所属がユニバーシティ・カレッジともキングス・カレッジとも確定できない場合、もしくはユニバーシティ・カレッジ・スクールとも確定できない場合である。また、ケンブリッジ大学・オックスフォード大学についても、所属カレッジの確定できない場合には、それぞれケンブリッジ大学・オックスフォード大学と表記する。

大久保潜龍 (1871.11-?, 滞在: 1895-1905 〈アイオワ大学→ロンドン大学〉) 新潟県北蒲原郡出身, 私費留学, 目的: 医学系, 出身学校: 外国, 初勤務先: 歯科医師開業【資料】五十嵐栄吉『大正人名事典』

小川梅三郎 (1862.9-1941.12.5, 滞在: 1896.7-98 〈ロンドン大学→ベルリン工科大学〉) 名古屋出身, 公費留学, 目的: 工学系, 出身校: 帝国大学工科大学土木学科, 初勤務先: 京都帝国大学理工科大学教授【資料】『大日本博士録』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『昭和物故人名録』

小倉房蔵 (1883.11.9-1952.7.17. 滞在: 1910-13) 埼玉県深谷出身, 自主渡航, 目的: 財政・金融, 出身校: 早稲田大学商学部, 初勤務先: 小倉石油会社支配人【資料】埼玉県立文化会館『埼玉県人物誌』

工藤鉄男 (1875.8-1953.6.16. 滞在: 1911-15) 青森県弘前出身, 私費留学, 目的: 経済, 出身校: 日本大学, 初勤務先: 日本大学歯科医学専門学校講師【資料】『青森県人名大事典』, 『大衆人事録』(昭和 14 年版), 『日本人名大事典』

小泉信吉 (1853-1938.1.6. 滞在: 1874 〈10.13〉-78) 和歌山出身, 私費留学, 目的: 経済学, 数学 (菊池大麓の世話・井上馨の J. S. ミル経済学研究を助ける・中上川彦次郎と同校), 出身校: 慶應義塾, 帰国後勤務先: 大蔵省出仕→横浜正金銀行→主税官→慶應義塾塾長【資料】小泉信三「師弟福沢先生と私の父」『文芸春秋』37-3, 『慶應義塾百年史』(中), 『外世井上公伝』, 石附実『近代日本の海外留学生史』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『日本人名大事典』

桜井小太郎 (1870.9.11-1953.11.11. 滞在: 1888.8.18-93.11) 東京都神田出身, 私費留学, 目的: 工学 (建築学), 出身校: 東京府尋常中学校, 帰国後勤務先: コンドルの助手【資料】「桜井君」『建築雑誌』4-45, 「桜井小太郎君」『建築雑誌』4-48, 「桜井小太郎君」『建築雑誌』4-48, 「桜井小太郎氏の名誉」『建築雑誌』5-55, 「桜井小太郎君逝去」『建築雑誌』69-807, 『大日本博士録』, 伊藤三千雄・前野嶠『日本の建築 [明治大正昭和]』(8), 『日本人名大事典』

佐野善作 (1873.8.29-1952.5.1. 滞在: 1897-1900.10 〈コロンビア大学, ロンドン大学, テクニカル・スクール・マンチェスター〉) 静岡出身, 公費留学, 目

的：財政・金融（財政・経済学），出身校：高等商業学校，初勤務先：高等商業学校助教授，帰国後勤務先：高等商業学校教授→東京商科大学初代校長【著作】『取引所投機論』，『銀行論』，『商学通論』【資料】『一橋大学と佐野善作先生』，『佐野善作博士記念論文集』，渡辺実『近代日本留学生史』，日本力行会『現今日本名家列伝』，『日本人名大事典』

武田久吉（1883.3.2. -1972.6.7, 滞在：1910-1916）東京出身，私費留学，目的：理学（植物学）系，出身校：東京外国語学校，初勤務先：京都帝国大学講師【著作】『富士山』，『高山植物写真図聚』，『民族と植物』【資料】武田久吉「師・友・書籍」『科学ペン』6-6，『日本人名大事典』

田中萃一郎（1873.3.7-1923.8. 滞在：1905-07）静岡県田方郡出身，私費留学，目的：人文（史学，政治学）系，出身校：慶應義塾大学部文学科，初勤務先：伊豆学校校長心得→慶應義塾大学教授【資料】「故田中博士略歴並びに其の著作年表」『史学』2-4，幸田成友『凡人の半生』，『慶應義塾百年史』（別巻），『大日本博士録』，『日本人名大事典』

辰野金吾（1853.8.22. -1919.3.25, 滞在：1880.2.8-83.5 〈キュービット建築会社，ロンドン大学→ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ [1886.7. -89.10]〉）佐賀県唐津出身，公費留学，公費個人視察，目的：工学系（建築学）系，出身校：工部大学校造家科（第1回卒業生として荒川新一郎・石橋絢彦・高峰譲吉らと留学），初勤務先：工部省御用掛（営繕課出勤）【資料】白鳥省吾『工学博士辰野金吾伝』，岸田日出刀『辰野金吾』，辰野隆「父の思い出」『建築雑誌』72-844，『旧工部大学校史料』，『大日本博士録』，『日本人名大事典』

津田静一（1852-1909.11.28. 滞在：1869-75 〈エール大学〉→1885-87 〈ロンドン大学〉）熊本坪井出身，公費留学，私費留学，目的：人文系，出身校：時修館，帰国後勤務先：清国公使館一等書記見習【資料】能田益貴『棋溪津田先生伝纂』，『津田静一先生 25 回忌追悼会』，『錦溪旧友会誌』，『日本人名大事典』

日野資秀（1863.5.19-1903.11.23. 滞在：1888-94）京都出身，公費留学，目的：法律，初勤務先：明宮出仕→東宮侍従【資料】『明治過去帳』，『日本現今人

名辞典』、『日本人名大事典』

福原和勝（往弥：1864-1877.3.23, 滞在：1869.6-72.11.28, 1876〈ロンドンで学ぶ〉）山口出身, 公費留学, 公費団体視察, 目的：軍事, 帰国後勤務先：陸軍大佐【資料】『太政類典』, 日本英学史学会編『英語事始』, 石附実『近代日本の海外留学生史』, 『明治維新人名事典』, 『明治過去帳』

穂積重遠（1883.4.11-1951.7.29. 滞在：1912.10.24-16〈ボン大学→ロンドン大学→ハーバード大学〉）東京出身, 公費留学, 目的：法律, 初勤務先：東京帝国大学法科大学教授【資料】穂積重遠「法律を学んだころ」『法律時報』22-4, 我妻栄「穂積重遠先生」『法律時報』23-8, 中川善之助「穂積重遠先生を悼む」『法律時報』23-8, 日本学士院『学問の山なみ』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『日本人名大事典』

水崎基一（1871.9.28-1937.11.29. 滞在：1899-1902〈エジンバラ大学→ロンドン大学〉）長野県東筑摩郡出身, 私費留学, 目的：財政・金融, 出身校：同志社, 初勤務先：北海道樺戸集治監教誨師【資料】浅野総合中学校編刊『追悼故水崎基一先生』, 『横浜 YMCA 百年史』, 『日本キリスト教歴史大事典』

山本美越乃（1874.1.22-1941.5.13. 滞在：1905.3-07.8〈ウィスコンシン大学→ロンドン大学→ハレ大学〉）三重県志摩郡出身, 公費留学, 目的：財政・金融, 出身校：京都帝国大学法科大学, 初勤務先：市立大阪高等商業学校教授【著作】『植民政策研究』, 『植民地問題私見』【資料】『山本美越乃博士年譜・著書論文目録』, 「山本美越乃博士逝く」『経済論叢』52-6, 『大日本博士録』, 『日本人名大事典』

第2節 ケンブリッジ大学在籍者・卒業生

1. リーズ・スクール (Leys School, Cambridge)¹⁶⁾

今村繁三 (1877.1.23-?. 滞在：1896-02 〈リーズ・スクール [確認在籍：1896-99] →ケンブリッジ大学 [Imamura Schigezo, 確認在籍：Trinity, 1899-1902, M.1899]) 東京出身, 私費留学, 目的：人文系, 出身校：慶應義塾, 高等師範学校付属中学校【資料】藤井泰「ケンブリッジ大学の日本人留学生 (1873-1911) —ケンブリッジ大学側の資料—」『松山大学論集』5-4, 田中恵子「英国ケンブリッジ, リーズ・スクールへの明治大正期日本人留学生」『青葉学園短期大学紀要』23-26, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 五十嵐栄吉『大正人名辞典』, 古林亀治郎『現代人名辞典』 cf. 小谷松次郎『今村清之助君事歴』, 松下軍次『信濃名士伝』

今村周 (1879.4-1961.7.14. 滞在：1896-99 〈リーズ・スクール [確認在籍：1896-99] →アントワープ商業学校 [Institute Supérieur de Commerce d'Anvers (1899-)]〉) 東京出身, 私費留学【資料】田中恵子「英国ケンブリッジ, リーズ・スクールへの明治大正期日本人留学生」(IMANURA 〈INOUE〉, Shu: 在籍確認)『青葉学園短期大学紀要』23-26, cf. 小谷松次郎『今村清之助君事歴』, 松下軍次『信濃名士伝』

井上周→今村周

小笠原長幹 (1885.3.2-1935.2.9. 滞在：1902-05 〈リーズ・カレッジ [確認在籍：1902-04]〉) 小倉出身, 私費留学, 目的：人文系, 出身校：学習院, 帰国後勤務先：宮内庁式部官【資料】田中恵子「英国ケンブリッジ, リーズ・ス

16) リーズ・スクールの在籍確認ために利用したのは主として、田中恵子「英国ケンブリッジ, リーズ・スクールへの明治大正期日本人留学生」(1)-(4) (『青葉学園短期大学紀要』第23号 [1998]、第24号 [1999]、第25号 [2000]、第26号 [2001]) である。

なお、① 1888年入学者は広沢金次郎、副島道正、川村鉄太郎であり、② 1890年11月時点でのリーズ・スクール在籍生は、川村鉄太郎、広沢金次郎、副島道正であり、入学準備生は長田忠一 (金銭的理由で中途退学) である。さらに③ 1890年までのリーズ・スクール在籍者 (12名) である。この内、ケンブリッジ大学進学者は広沢金次郎、副島道正、田中銀之助、鍋島直映、藤村義朗、今村繁三である。また、④ 第一次大戦後にリーズ・カレッジへの入学者は、池田潔、田中元八郎、池田豊、川崎守之、石井太郎、星野正一である。

クールへの明治大正期日本人留学生」(OGASAWARA, Count Nagayoshi : 在籍確認)『青葉学園短期大学紀要』23-26, 畠中惣治郎『帝都紳士淑女列伝』(昭和 4 年), 五十嵐栄吉『大正人名辞典』, 古林亀治郎『現代人名辞典』, 『国史大辞典』

長田忠一(秋濤: 1871.10.5-1915.12.25. 滞在: 1886-93.10〈リーズ・スクール→ソルボンヌ大学〉)静岡出身, 私費留学, 公費留学, 出身校: 学習院, 目的: 法律【資料】秋濤会『長田秋濤居士』, 川西良三・藤木喜一郎「仏文学者長田秋濤伝」『独仏文学研究』1-2, 田中恵子「英国ケンブリッジ, リーズ・スクールへの明治大正期日本人留学生」(OSADA Sadaichi : 在籍確認)『青葉学園短期大学紀要』23-26, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 中村光夫『贗の偶像』, 『兵庫県人物事典』(下), 『日本近代文学大事典』, 『日本人名大事典』

川上忠介(?-?. 滞在: 1899-1900〈リーズ・スクール[確認在籍: 1899-1900]〉)出身校: 学習院【資料】田中恵子「英国ケンブリッジ, リーズ・スクールへの明治大正期日本人留学生」(KAWAKAMI Chusuke : 在籍確認)『青葉学園短期大学紀要』23-26

川村鉄太郎(1870.5.24-1945.4.23. 滞在: 1885-91〈リーズ・スクール〉)鹿児島出身, 出身校: 学習院【資料】田中恵子「英国ケンブリッジ, リーズ・スクールへの明治大正期日本人留学生」(KAWAMURA, Count Kogi Tetsutaro : 在籍確認)『青葉学園短期大学紀要』23-26, cf. 田村栄太郎『明治海軍の創始者川村純義・中牟田倉之助伝』

近藤滋弥(1882.9.17-1953. 滞在: 1904-09〈リーズ・スクール[確認在籍: 1902-03]→グラスゴウ・スコットランド西部技術短大→グラスゴウ大学[1909卒業]〉)徳島県出身, 私費留学, 目的: 工学(造船学)系, 帰国後勤務先: 東京鉄道会社技師【資料】田中恵子「英国ケンブリッジ, リーズ・スクールへの明治大正期日本人留学生」(KONDO Baron Shigeya : 在籍確認)『青葉学園短期大学紀要』23-26, 北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 『大衆人事録』(昭和 14 年), 『昭和物故人名録』

副島道正 (1871.10.14-1948.10.13. 滞在：1888-94 〈リーズ・スクール [確認在籍：1888-91] →ケンブリッジ大学 [Soyeshima Michimasa, 確認在籍：St. John's, 1891-94, M 1891, A. B.1894]〉) 東京麹町出身, 私費留学, 目的：人文系, 出身校：学習院, 帰国後勤務先：東京商業学校講師, 帰国後勤務先：東宮侍従【資料】田中恵子「英国ケンブリッジ, リーズ・スクールへの明治大正期日本人留学生」(SOYESHIMA, Count Michimasa : 在籍確認)『青葉学園短期大学紀要』23-26, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 趙聖九『朝鮮民族運動と副島道正』 cf. 「1887年9月英国に渡った道正は, 1888年リース中学に入学して, ケンブリッジ大学入学を目指す。リース中学では生徒副監督を任命されるほど, 勉学に励んだ道正は, 1891年同校大学予備科を卒業し, 同年9月ケンブリッジに入学した。1894年6月同校政治学科を卒業した彼は10月帰国した」(自筆履歴書による), 奈倉文二『兵器製鋼会社の日英関係史—日本製鋼所と英国側株主—』, 五十嵐栄吉『大正人名辞典』, 『日本人名大事典』

園田清彦 (?-?. 滞在：1906-08 〈リーズ・カレッジ [確認在籍：1906-08]〉) 出身校：学習院【資料】田中恵子「英国ケンブリッジ, リーズ・スクールへの明治大正期日本人留学生」(SONODA Kiyohiko : 在籍確認)『青葉学園短期大学紀要』23-26

田中銀之助 (1873.1.20-1935.8.27. 滞在：1889-97 〈リーズ・スクール→ケンブリッジ大学 [Tanaka Ginnosuke Gisei, 確認在籍：Trinity Hall, 1893-96, M 1893 LL. B.1896]〉) 横浜出身, 私費留学, 目的：法律, 出身校：学習院, 帰国後勤務先：田中銀行取締役【資料】田中恵子「英国ケンブリッジ, リーズ・スクールへの明治大正期日本人留学生」(TANAKA Ginnosuke : 在籍確認)『青葉学園短期大学紀要』23-26, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 奈倉文二『兵器製鋼会社の日英関係史—日本製鋼所と英国側株主—』, 『財界物故傑物伝』, 五十嵐栄吉『大正人名辞典』, 『日本人名大事典』

藤堂高紹 (1884.7.27-1943.1.12. 滞在：1904-07 〈リーズ・カレッジ [確認在籍：1904-07]〉) 出身校：学習院, 帰国後：日伊協会幹部【資料】田中恵子「英

国ケンブリッジ, リーズ・スクールへの明治大正期日本人留学生」(TODO, Count Takatsuga : 在籍確認)『青葉学園短期大学紀要』23-26, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』

鍋島直映 (1872.7.17 〈cf. 田中恵子〉 or 1875.8.20 〈cf. 藤井泰〉-1943.12.10.

滞在 : 1892-1903 〈リーズ・スクール [確認在籍 : 1891-94] →ケンブリッジ大学 [Nabeshima Nawamitsu, 確認在籍 : Gonville & Caius, 1895-98, M 1885, A. B.1898) 東京出身, 私費留学, 目的 : 財政・金融, 出身校 : 慶應義塾【著作】『三太郎』, 『心機一転』, 『女天下』, 『新オセロ』【資料】田中恵子「英国ケンブリッジ, リーズ・スクールへの明治大正期日本人留学生」(NABESHIMA, Marquis Nawomitsu : 在籍確認)『青葉学園短期大学紀要』23-26, 藤井泰「ケンブリッジ大学の日本人留学生 (1873-1911) —ケンブリッジ大学側の資料—」(NABESHIMA Nawomitus : 在籍確認)『松山大学論集』5-4, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』(キーズ・カレッジ〈1895-97〉), 五十嵐栄吉『大正人名辞典』, 『日本近代文学大事典』, 『日本人名大事典』

日野尊宝 (?-1970. 滞在 : 1900-02 〈リーズ・スクール [確認在籍 : 1900-02]〉)

【資料】田中恵子「英国ケンブリッジ, リーズ・スクールへの明治大正期日本人留学生」(HINO Sompo : 在籍確認)『青葉学園短期大学紀要』23-26

広沢金次郎 (1871.7.13-1928.12. 滞在 : 1888-1904 〈リーズ・スクール [確認在籍 : 1888-90] →ケンブリッジ大学 [Hirosawa Kinjiro, 確認在籍 : Gonville & Caius, 1890-93, M 1890, A. B.1893] 山口県出身, 公費留学, 目的 : 法律, 出身校 : 慶應義塾, 帰国後勤務先 : 貴族院議員【資料】田中恵子「英国ケンブリッジ, リーズ・スクールへの明治大正期日本人留学生」(HIROSAWA, Count Michimasa : 在籍確認)『青葉学園短期大学紀要』23-26, 藤井泰「ケンブリッジ大学の日本人留学生 (1873-1911) —ケンブリッジ大学側の資料—」(HIROSAWA Kinjiro : 在籍確認)『松山大学論集』5-4, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 奈倉文二『兵器製鋼会社の日英関係史—日本製鋼所と英国側株主—』cf. 広沢は日本製鋼所創立時にヴィッカーズ社側取締役 A. T. ドーソンの「代理人」として入社, 後ドーソン辞任に伴い〈1918.2〉,

ヴィッカーズ社推薦の世紀の取締役就任する」。『華族家系大成』, 五十嵐栄吉『大正人名辞典』, 日本力行会『現今日本名家列伝』

藤村義朗 (1870.12.4-1933.11.27. 滞在：1885-92 〈リーズ・スクール [確認在籍：1887-88] →ケンブリッジ大学 [Fujimura Yoshiaki, 確認在籍：St. John's, 1888-91, M 1888, A. B.1891, 1897, 1906]〉) 京都出身, 私費留学, 私費個人視察, 私費団体視察, 目的：経済, 帰国後勤務先：熊本九州学院教授【資料】『東野選稿藤村義朗遺稿』, 田中恵子「英国ケンブリッジ, リーズ・スクールへの明治大正期日本人留学生」(FUJIMURA, Baron Yoshiaki Korima : 在籍確認)『青葉学園短期大学紀要』23-26, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 『人事興信録』, 『日本人名大事典』

益田太郎 (1875.9.25-1953.5.18. 滞在：1890-99 〈リーズ・スクール [確認在籍：1891-94] →アントワープ商業学校 [Institute Supérieur de Commerce d'Anvers (1895-97)]〉) 東京出身, 私費留学, 目的：財政・金融, 出身校：慶應義塾【著作】『三太郎』, 『心機一転』, 『女天下』, 『新オセロ』【資料】田中恵子「英国ケンブリッジ, リーズ・スクールへの明治大正期日本人留学生」(MASUDA, Baron Taro : 在籍確認)『青葉学園短期大学紀要』23-26, 『日本近代文学大事典』, 五十嵐栄吉『日本人名大事典』, 『大正人名辞典』

三井弁蔵 (高友, 宗知：1887.12.7-1941.5.21. 滞在：1908- 〈リーズ・カレッジ [確認在籍：1908-09] →バーミンガム大学 [1910 入学]〉-) 出身校：学習院【資料】田中恵子「英国ケンブリッジ, リーズ・スクールへの明治大正期日本人留学生」(MITSUI Bebsō Takayomo : 在籍確認)『青葉学園短期大学紀要』23-26

山内豊尹 (1866.10.12-1912.12.30. 滞在：1887-88 〈リーズ・スクール〉) 土佐出身, 出身校：学習院【資料】田中恵子「英国ケンブリッジ, リーズ・スクールへの明治大正期日本人留学生」(Yamanouchi, Vincount Toyotada : 在籍確認)『青葉学園短期大学紀要』23-26 cf. 平尾道雄『容堂公記伝』

渡辺英夫 (1894.10.28-1953.10.31. 滞在：1908-16 〈リーズ・カレッジ [確認在籍：1908-13] →バーミンガム大学 [1913-16]〉) 【資料】田中恵子「英国ケ

ンブリッジ, リーズ・スクールへの明治大正期日本人留学生」(WATANABE Hideo : 在籍確認)『青葉学園短期大学紀要』23-26

渡辺米夫 (1900.3.4-1988.8. 滞在 : 1914-23 〈リーズ・カレッジ [確認在籍 : 1914-15] →ケンブリッジ大学 [Magdalene, 確認在籍 : 1919-23]〉) 【資料】田中恵子「英国ケンブリッジ, リーズ・スクールへの明治大正期日本人留学生」(WATANABE Yoneo, M. B. E. : 在籍確認)『青葉学園短期大学紀要』23-26

2. ケンブリッジ大学¹⁷⁾

池田岩治 (1872-1922.6.2. 滞在 : 1909-11) 新潟県古志郡出身, 公費留学, 目的 : 理学 (動物学) 系, 出身校 : 東京帝国大学理科大学, 初勤務先 : 東京帝国大学理科大学→広島高等師範学校教授【資料】駒井卓「故池田岩治博士」『動物学雑誌』34-410, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『日本人名大事典』伊沢克巳 (1877-1903.10. 滞在 : 1898.7 〈Iswa Katsmi, 確認在籍 : St. John's College, 1898.8-, M.1898〉-) 高知県出身, 私費留学 (東京帝国大学教授 E. フォックスウエルの紹介), 目的 : 経済学 (1898.10 喀血) 出身校 : 同志社普通部, 帰国後勤務先 : 高知県海南中学校教師【資料】『同志社校友会会報』10, 13, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』

17) ケンブリッジ大学の在籍確認ために利用したのは主として以下の資料である。

- ① *The Book of Matriculations and Degrees: a Catalogue of those who have Matriculated or admitted to any Degree in the University of Cambridge from 1851-1900*, Cambridge, 1902
- ② Edwards, H. J., "Japanese Undergraduates at Cambridge," *Transactions and Proceedings of the Japan Society*, vol.7, London, 1908.
- ③ Venn, J. A., *Alumni Cantabrigienses: a biographical list of all known students, graduates and holders of office at the University of Cambridge, from the earliest times to 1900*, 6 vols Cambridge, 1940-54.
- ④ 藤井泰「ケンブリッジ大学の日本人留学生 (1873-1911) —ケンブリッジ大学側の資料—」『松山大学論集』第 5 巻第 4 号、401-17 頁。
- ⑤ 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』講談社、1998.

なお、ケンブリッジ大学名誉博士号受賞者 (Hon. LL. D.) は、浜尾新 (1887), 林董 (1905), 伏見宮博恭王 (1907), 昭和天皇 (年度不明), 長岡半太郎 (1925) である。

伊藤篤太郎 (1865.11.29-1941.3.21. 滞在：1884-87 〈Ito Tokutaso, 確認在籍：Newnham College, M 1884〉) 名古屋出身, 私費留学, 目的：理学 (生物学) 系, 出身校：伊藤圭介に師事【資料】上野益三『日本博物学史』, 『国史大辞典』

稲垣満次郎 (1861-1908.11. 滞在：1885-93 〈Inagaki Manjiro, 確認在籍：Newnham College, M 1886 → Gonville & Caius, 1888-89, A. B. 1889〉) 長崎県出身, 私費留学, 目的：法律, 出身校：東京大学, 帰国後勤務先：学習院嘱託教授【資料】藤井泰「ケンブリッジ大学の日本人留学生 (1873-1911) —ケンブリッジ大学側の資料—」『松山大学論集』5-4, 田中弥次郎「稲垣満次郎と泰国」『国際評論』8-4, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 長崎県立長崎図書館『郷土の先覚者たち』, 『日本人名大事典』

稲葉正縄 (1867.7-1919.3.23. 滞在：1888-92 〈Inaba Masanao, 確認在籍：St. John's College, 1887-92, A. B. 1892〉) 江戸平戸藩邸出身, 私費留学, 目的：人文系, 出身校：学習院, 帰国後勤務先：東宮侍従【資料】藤井泰「ケンブリッジ大学の日本人留学生 (1873-1911) —ケンブリッジ大学側の資料—」『松山大学論集』5-4, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 五十嵐栄吉『大正人名辞典』, 『日本人名大事典』

犬塚武夫 (1872.1-?. 滞在：1902.1-05 〈ケンブリッジ大学→ロンドン大学〉) 福岡市京都郡出身, 私費留学, 目的：経済 (経済学・商業学), 出身校：高等商業学校, 帰国後勤務先：大蔵省出仕, 帰国後勤務先：第一銀行行員【資料】五十嵐栄吉『大正人名辞典』, 古林亀治郎『現代人名辞典』

今村繁三 (1877.1.23-?. 滞在：1896-02 〈リーズ・スクール [確認在籍：1896-99] →ケンブリッジ大学 [Imamura Schigezo, 確認在籍：Trinity, 1899-1902, M.1899]〉) 東京出身, 私費留学, 目的：人文系, 出身校：慶應義塾, 高等師範学校付属中学校【資料】藤井泰「ケンブリッジ大学の日本人留学生 (1873-1911) —ケンブリッジ大学側の資料—」『松山大学論集』5-4, 田中恵子「英国ケンブリッジ, リーズ・スクールへの明治大正期日本人留学生」『青葉学園短期大学紀要』23-26, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 五十嵐栄吉『大正人

名辞典』, 古林亀治郎『現代人名辞典』 cf. 小谷松次郎『今村清之助君事歴』,
松下軍次『信濃名士伝』

岩崎小弥太 (1879.8.3-1945.12.5. 滞在: 1900 (1902.10.21) -06.3) 東京出身,
私費留学, 目的: 財政・金融, 帰国後勤務先: 三菱合資会社副社長【資料】岩
崎小弥太『随時随想』, 同編編集委員会『岩崎小弥太伝』, 『日本財界人物列
伝 1』, 加藤武男「岩崎小弥太を語る」『実業の世界』50-1, 「岩崎小弥太と日
本の重工業」『中央公論』, 森川英正「岩崎小弥太と三菱財閥の企業組織」,
小山騰『破天荒 (明治留学生) 列伝』, 宮川隆泰『岩崎小弥太—三菱を育てた
経営理念—』, 五十嵐栄吉『大正人名辞典』, 『日本人名大事典』 cf. マーシャ
ルのもとで経済学を学ぶ

岩崎豊弥 (1875.1.19-?. 滞在: 1888-07 (Iwasaki Toyoya, 確認在籍: Trinity
College, M 1900)) 東京出身, 私費留学, 目的: 財政学・金融, 帰国後勤務
先: 日本セルロイド人絹糸株式会社取締役【資料】五十嵐栄吉『大正人名辞
典』, 古林亀治郎『現代人名辞典』

岩崎秀弥 (?-1911. 滞在: 1901 (19 歳: グラスゴウ・スコットランド西部技術
短大→グラスゴウ大学→ケンブリッジ大学)) 目的: 造船学, 蒸気機関【資
料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 『岩崎
久弥伝』, 『財界物故傑物伝』(上)

大隈信常 (1871.8.16-1947.1.11. 滞在: 1905.9-07.10 (Trinity College, 1906-
?)) 長崎県平戸出身, 私費留学, 目的: 経済(商業学), 出身校: 東京帝国大学
法科大学, 初勤務先: 三井物産, 帰国後勤務先: 早稲田大学教授【資料】藤
井泰「ケンブリッジ大学の日本人留学生 (1873-1911) —ケンブリッジ大学
側の資料—」(OKUMA Nobutsune: 在籍確認)『松山大学論集』5-4, 『早
稲田大学百年史』(2), 『日本人名大事典』

大倉喜七郎 (1882.6.16-1963.2.2, 滞在: ?-07 (Trinity College, 1903-)) 東京
出身, 出身校: 学習院, 帰国後勤務先: 帝国ホテル社長→大倉組組頭【資料】
『男爵—元祖プレーボーイ大倉喜七郎の優雅なる一生—』, 藤井泰「ケンブ
リッジ大学の日本人留学生 (1873-1911) —ケンブリッジ大学側の資料—」

(OKURA Kishichiro : 在籍確認)『松山大学論集』5-4,『現代日本朝日人物事典』cf. 尾立維孝『立身実伝大倉喜八郎』,『日本財界人物列伝』(2),『日本実業家列伝4 大倉喜八郎』,大倉高等商業学校編『鶴彦翁回顧』

大瀬甚太郎 (1865.12.24-1944.5.29. 滞在: 1893-97.12 <ドイツ [ベルリン大学・ライプチヒ大学]・フランス [パリ大学]・イギリス [オックスフォード・ケンブリッジ]>)) 金沢出身, 公費留学, 目的: 人文 (教育学) 系, 出身校: 帝国大学文科大学哲学科, 初勤務先: 東京高等師範学校教授, 帰国後勤務先: 東京高等師範学校教授兼東京帝国大学講師【著作】『欧州教育史』【資料】『回顧六十年』,『文学博士大瀬甚太郎先生小伝・略歴・著書目録』, 渡辺実『近代日本留学生史』,『日本人名大事典』

大村彦太郎 (1869.3.26-1927.12.13. 滞在: 1887-95.5) 京都出身, 私費留学, 目的: 経済, 出身校: 小松原塾, 帰国後勤務先: 白木屋第十代当主【資料】実業之世界社編『財界物故傑物伝』, 五十嵐栄吉編『大正人名辞典』

岡部長職 (1854.11-1925.12.27. 滞在: 1875.10-83.10 <エール大学→ケンブリッジ大学>, 1888-89 <公使館参事>)) 大阪岸和田出身, 私費留学, 目的: 法律【資料】小山騰『破天荒 (明治留学生) 列伝』, 泰郁彦『戦前期日本官僚制の制度・組織・人事』

Kato Yasu Michi (1879.4.10-?. 滞在: 1904-06 <Pterhouse, 1904-06>)) 出身校: 学習院【資料】藤井泰「ケンブリッジ大学の日本人留学生 (1873-1911) —ケンブリッジ大学側の資料—」(在籍確認)『松山大学論集』5-4

菊池泰二 (?-1921.3.2 <29歳>. 滞在: 1919-1921.3.2 <St. John's College, 1919-1921.3.2>)) 出身校: 東京帝国大学物理学科, 初勤務先: 理化学研究所【資料】小山騰『破天荒 (明治留学生) 列伝』,『東京朝日新聞』(1921.3.7)

菊池大麓 (箕作: 1855.1. -1917.8.20. 滞在: 1866-68.6, 1870-77 <ユニバーシティ・カレッジ・スクール [W. V. ロイド] →ユニバーシティ・カレッジ>, 1884.7.22-85.6.21 <ケンブリッジ大学 [St. John's College, 1873-77]・ユニバーシティ・カレッジ>)) 江戸出身, 公費留学, 公費留学, 公費個人視察, 目的: 理学 (数学) 系, 帰国後勤務先: 東京大学 (2回目)【資料】「菊池大麓

君」『東洋学芸雑誌』20, 「菊池大麓君」『東洋学芸雑誌』35, 「菊池大麓君」『東洋学芸雑誌』65, 「菊池氏の談話」『東洋学芸雑誌』67, 「嗚呼菊池大麓先生」『東洋学芸雑誌』432, 窪田忠彦「菊池大麓先生と天野一丞先生」『科学』18-1, 中山茂「菊池大麓のケンブリッジ時代について」『科学史研究』63, 佐々醒雪等「浜尾総長と菊池総長」『中央公論』25-4, 藤井泰「ケンブリッジ大学の日本人留学生 (1873-1911) —ケンブリッジ大学側の資料—」『松山大学論集』5-4, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 『公文録』, 『太政類典』, 唐沢富太郎『教育人物事典』, 『日本人名大事典』

九条良致 (?-1940. 滞在 : 1910.10 〈Clare College, 1910-20〉-) 目的 : 政治・経済学, 政治学, 帰国後勤務先 : 式部官【資料】籠谷真知子『九条武子—その生涯のあしあと—』, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』

Kurahara Koreteru (確認在籍 : Downing College, M 1898 〈Advanced Student〉) 【資料】*The Book of Matriculations and Degrees: a Catalogue of those who have Matriculated or admitted to any Degree in the University of Cambridge from 1851-1900.*

黒田長成 (1867.5.5-1939.8.14. 滞在 : 1884-89 〈Kuroda Nagashige, 確認在籍 : King's College, L 1885, A. B.1887. A. M.1891〉) 福岡出身, 私費留学, 目的 : 法律, 帰国後勤務先 : 式部官【資料】井上哲次郎「黒田侯爵を追懐し其の詩集に対する感想を述ぶ」『斯文』21-11, 藤井泰「ケンブリッジ大学の日本人留学生 (1873-1911) —ケンブリッジ大学側の資料—」(KURODA Nagatoshi : 在籍確認)『松山大学論集』5-4, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 『日本人名大事典』

黒田長和 (?-?. 滞在 : 1907 〈King's College, 1907〉-) 【資料】藤井泰「ケンブリッジ大学の日本人留学生 (1873-1911) —ケンブリッジ大学側の資料—」(KURODA Nagashige : 在籍確認)『松山大学論集』5-4, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』

KOGA Manjiro (1887.10.4-?. 滞在 : 1908 〈Peterhouse, 1908〉-) 佐賀出身, 出身校 : 神戸高等商業学校, New York University 【資料】藤井泰「ケンブ

リッジ大学の日本人留学生 (1873-1911) —ケンブリッジ大学側の資料—
(在籍確認)『松山大学論集』5-4

佐々木高美 (1862.2.7-1902.7.8. 滞在：1884.5-89 〈ケンブリッジ, オックス
フォード〉) 土佐出身, 公費留学, 目的：人文系, 初勤務先：外務省御用掛, 帰
国後勤務先：留学中, 交際官試補【資料】杉浦重剛「佐々木侯 附佐々木高
美君」『知己八賢』, 杉浦重剛『回想杉浦重剛』, 『明治過去帳』

柴原亀二 (1867-1935. 滞在：1889-95, 1908-09 〈Shibahara Kameji, 確認在
籍：Trinity College, L 1889〉) 播州竜野出身, 目的：法律, 全般・外交交渉,
出身校：帝国大学法科大学, 帰国後勤務地：弁護士【資料】『東亜先覚志士記
伝』, 『日本人名大事典』

末松謙澄 (1855.8.20-1920.10.6. 滞在：1878-86 〈ユニバーシティ・カレッジ
[Suyematz, K., 確認在籍：1879-80] →ケンブリッジ大学 [Newnham Col-
lege, 1881, M 1881 → St. John's College, 1881-84, LL. B. 欠席授与
1888]〉) 福岡県京都郡出身, 公費団体視察, 私費留学, 目的：全般・外交交渉・
人文系, 出身校：大学南校, 帰国後勤務先：正院御用掛→文部省参事官【著作】
『日本文章論』, 『羅馬法典解説』【資料】無何有郷主人『伊藤博文附伊藤巳代
治・末松謙澄』, 大田原在文『十大先覚記者伝』, 玉江彦太郎『若き日の末松謙
澄—在英通信—』, 玉江彦太郎『青萍・末松謙澄の生涯』, 末松謙澄『青萍詩存』,
正村正義『ポーツマスへの道—黄渦論とヨーロッパの末松謙澄—』, 藤井泰
「ケンブリッジ大学の日本人留学生 (1873-1911) —ケンブリッジ大学側の資
料—」(SUYAMATZ Kenchio：在籍確認)『松山大学論集』5-4, 小山騰『破
天荒〈明治留学生〉列伝』, 泰郁彦『戦前期日本官僚制の制度・組織・人事』,
『大政類典』, 『福岡県百科事典』, 『日本人名大事典』

左右田喜一郎 (1881.2.28-1927.8.11. 滞在：1904.7-13.7 〈ケンブリッジ大学→
フルブライト大学→チュービンゲン大学〉) 横浜出身, 私費留学, 目的：経
済学, 出身校：東京高等商業学校, 帰国後勤務先：東京商業学校講師【著作】
『貨幣と価値』, 『経済法則の論理的性質』, 『左右田喜一郎全集』【資料】「左右
田喜一郎博士年譜」『思想』72, 「左右田喜一郎博士追悼録」『思想』72, 『大

日本博士録』、『日本近代文学大事典』、『国史大事典』、『日本人名大事典』
副島道正（1871.10.14-1948.10.13. 滞在：1888-94〈リーズ・スクール〔確認
在籍 1888-91〕→ケンブリッジ大学〔Soyeshima Michimasa, 確認在籍：St.
John's, 1891-94, M 1891, A. B.1894〕〉）東京麹町出身，私費留学，目的：
人文系，出身校：学習院，帰国後勤務先：東京商業学校講師，帰国後勤務先：
東宮侍従【資料】田中恵子「英国ケンブリッジ，リーズ・スクールへの明治
大正期日本人留学生」（SOYESHIMA, Count Michimasa：在籍確認）『青
葉学園短期大学紀要』23-26，小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』，趙聖九
『朝鮮民族運動と副島道正』cf. 「1887 年 9 月英国に渡った道正は，1888
年リース中学に入学して，ケンブリッジ大学入学を目指す。リース中学では
生徒副監督を任命されるほど，勉学に励んだ道正は，1891 年同校大学予備科
を卒業し，同年 9 月ケンブリッジに入学した。1894 年 6 月同校政治学科を
卒業した彼は 10 月帰国した」（自筆履歴書による），奈倉文二『兵器製鋼会
社の日英関係史—日本製鋼所と英国側株主—』，五十嵐栄吉『大正人名辞典』，
『日本人名大事典』

添田寿一（1864.8.15-1929.7.4. 滞在：1884.9-87.8〈ユニバーシティ・カレッジ
〔Soyeda, J., 確認在籍：1884-85〕→ケンブリッジ大学〔Soyeda Juichi, 確認在
籍：Newnham Colleg, L 1885〕→ハイデルベルク大学〉）福岡出身，私費留学，
目的：財政・金融，出身校：東京大学法学部政治学科，初勤務先：大蔵省主税局御用
掛，帰国後勤務先：大蔵省主税官【資料】広渡四郎『添田寿一君小伝』，遠間平一
郎「興銀総裁添田寿一」『財界一百人』，大輪董郎『財界の巨人』，横山雅男「添田
博士の長逝を悼む」『統計学雑誌』517，西川俊作『福沢諭吉と三人の後進たち』，
小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』，杉原四郎「添田寿一」『日本のエコノ
ミスト』，泰郁彦『戦前期日本官僚制の制度・組織・人事』，『日本人名大事典』

高橋作衛（1867-1920.9.12. 滞在：1897-01）信州高遠出身，公費留学，目的：
法律（国際公法），出身校：帝国大学法科大学，初勤務先：海軍大学校教授，
帰国後勤務先：東京帝国大学法科大学教授【著作】『平時国際法論』，『戦時
国際公法』，『日米之新聞系』【資料】日本力行会『現今日本名家列伝』，渡辺

実『近代日本海外留学生史』, 『日本人名大事典』

田島担→浜口担

伊達菊重郎 (1870.9.9-?. 滞在: 1894-95 (Date, Kikujiro, 確認在籍, Peterhouse: 1894-95, M 1894)) 【資料】藤井泰「ケンブリッジ大学の日本人留学生 (1873-1911) —ケンブリッジ大学側の資料—」(DATE Kikujiro: 在籍確認)『松山大学論集』5-4, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』

田中銀之助 (1873.1.20-1935.8.27. 滞在: 1889-97 (リーズ・スクール→ケンブリッジ大学 [Tanaka Ginnosuke Gisei, 確認在籍: Trinity Hall, 1893-96, M 1893 LL. B.1896])) 横浜出身, 私費留学, 目的: 法律, 出身校: 学習院, 帰国後勤務先: 田中銀行取締役【資料】田中恵子「英国ケンブリッジ, リーズ・スクールへの明治大正期日本人留学生」(TANAKA Ginnosuke: 在籍確認)『青葉学園短期大学紀要』23-26, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 奈倉文二『兵器製鋼会社の日英関係史—日本製鋼所と英国側株主—』, 『財界物故傑物伝』, 五十嵐栄吉『大正人名辞典』, 『日本人名大事典』

中條精一郎 (1868.4.18-1936.1.30. 滞在: 1903.12.12-07.6.27) 山形県米沢出身, 私費留学, 目的: 工学 (建築学) 系, 出身校: 東京帝国大学工科大学建築学科, 帰国後勤務先: 文部省建築課設計掛長【資料】荒城季夫『中條精一郎』, 「故中條精一郎君略伝」『建築雑誌』50-612, 「中條精一郎君を弔ふ」『建築雑誌』50-612, 石田潤一郎『日本の建築〈明治大正昭和〉7—ブルジョワジーの装飾—』, 『日本人名大事典』

鍋島直映 (1872.7.17 (cf. 田中恵子) or 1875.8.20 (cf. 藤井泰)-1943.12.10. 滞在: 1892-1903 (リーズ・スクール [確認在籍: 1891-94] →ケンブリッジ大学 [Nabeshima Nawamitsu, 確認在籍: Gonville & Caius, 1895-98, M 1885, A. B.1898]) 東京出身, 私費留学, 目的: 財政・金融, 出身校: 慶應義塾【著作】『三太郎』, 『心機一転』, 『女天下』, 『新オセロ』【資料】田中恵子「英国ケンブリッジ, リーズ・スクールへの明治大正期日本人留学生」(NABESHIMA, Marquis Nawomitsu: 在籍確認)『青葉学園短期大学紀要』23-26, 藤井泰「ケンブリッジ大学の日本人留学生 (1873-1911) —ケンブリッ

- ジ大学側の資料—」(NABESHIMA Nawomitus : 在籍確認)『松山大学論集』5-4, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』(キーズ・カレッジ〈1895-97〉), 五十嵐栄吉『大正人名辞典』『日本近代文学大事典』, 『日本人名大事典』
- 西原博 (1878-1906.4.3. 滞在 : 1905.12-07) 愛媛県松山出身, 公費留学, 目的 : 工学 (応用電気等) 系, 出身校 : 海軍機関学校, 海軍大学校, 帰国後勤務先 : 帰国途中死亡【資料】海軍教育本部編『帝国海軍教育史』(7), 『明治過去帳』
- 二条基弘 (1859.10.25-1928.4.4. 滞在 : 1887-89 〈Nijo Motoshiro, 確認在籍 : Christ's College, M 1888〉) 京都出身, 私費留学, 目的 : 法律, 出身校 : 同人社【資料】『日本人名大事典』
- 西脇済三郎 (1880.12.23-1962. 滞在 : 1903-08) 小千谷出身, 私費留学, 目的 : 人文系, 出身校 : 学習院, 帰国後勤務先 : 新潟農工銀行取締役【資料】『純情人を泣かしめた西脇済三郎氏』, 『新潟県大百科事典』, 五十嵐栄吉『大正人名辞典』 古林亀治郎『現代人名辞典』
- Noda Kiystane (?-?. 滞在 : ? 〈確認在籍 : Newnham College, M 1892〉-) 【資料】*The Book of Matriculations and Degrees: a Catalogue of those who have Matriculated or admitted to any Degree in the University of Cambridge from 1851-1900*, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』(cf. Fitzwilliam Hall, 1892)
- 蜂須賀万亀治郎 (John : 1864-1901.12.13. 滞在 : 1872-1888 〈フランス→ケンブリッジ大学 [Hachisuka John Kakijiro, 確認滞在 : Penbroke College, M 1880]〉) 徳島出身, 私費留学, 目的 : 人文 (語学) 系, 帰国後勤務先 : 式部官【資料】富田仁『フランスに魅せられた人々』, 『明治過去帳』
- 蜂須賀正韶 (1871.3.8-1932.12.31. 滞在 : 1886-93 〈Hachisuka Masa Aki, 確認在籍 : Trinity College, 1890-95, M 1890, A. B.1895, A. M. 欠席授与 1899〉) 東京出身, 私費留学, 目的 : 人文 (政治学) 系, 出身校 : 学習院, 帰国後勤務先 : 宮内庁出仕【資料】藤井泰「ケンブリッジ大学の日本人留学生 (1873-1911) —ケンブリッジ大学側の資料—」(HACHISUKA Masa Aki : 在籍確認)『松山大学論集』5-4, 『公文録』, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉

列伝』、『徳島県百科事典』, 五十嵐栄吉『大正人名辞典』, 『日本人名大事典』
蜂須賀正氏 (?-?. 滞在: 1924 〈モードリアン・カレッジ〉-) 鳥類学者【資料】

小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』

浜口担 (田島担: 1872.6.3-1939.10.2. 滞在: 1886-1904 〈Tajima Tan, Hamaguchi Tan, 確認在籍: Newnham College, 1898, M 1898 → Penbroke College, 1898-1902〉) 和歌山県出身, 私費留学, 目的: 人文 (政治学) 系, 出身校: 東京専門学校, 帰国後勤務先: 衆議院議員【資料】藤井泰「ケンブリッジ大学の日本人留学生 (1873-1911) —ケンブリッジ大学側の資料—」(HAMAGUCHI Tan: 在籍確認), 『早稲田大学百年史』(1), 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』 cf. 学位取得のために受けた特別試験の試験科目は政治・経済学であった。和歌山出身で南方熊楠と既知 (1897-99 年: ロンドンでの交友, 『南方熊楠日記』参照), 『太政類典』, 五十嵐栄吉『大正人名辞典』, 『昭和物故人名録』

浜口録之助 (1878.2.8-?. 滞在: 1904 〈Penbroke College, 1904〉-) 和歌山県有田郡広村出身, 私費留学, 目的: 財政・金融, 出身校: 開成中学校, 帰国後勤務先: 三井物産勤務【資料】藤井泰「ケンブリッジ大学の日本人留学生 (1873-1911) —ケンブリッジ大学側の資料—」(HAMAGUCHI Kokumosuke: 在籍確認)『松山大学論集』5-4, 『公文録』, 五十嵐栄吉『大正人名辞典』, 『大衆人事録』

広沢金次郎 (1871.7.13-1928.12. 滞在: 1888-1904 〈リーズ・スクール [確認在籍: 1888-90] →ケンブリッジ大学 [Hirosawa Kinjiro, 確認在籍: Gonville & Caius, 1890-93, M 1890, A. B.1893]) 山口県出身, 公費留学, 目的: 法律, 出身校: 慶應義塾, 帰国後勤務先: 貴族院議員【資料】田中恵子「英国ケンブリッジ, リーズ・スクールへの明治大正期日本人留学生」(HIROSAWA, Count Michimasa: 在籍確認)『青葉学園短期大学紀要』23-26, 藤井泰「ケンブリッジ大学の日本人留学生 (1873-1911) —ケンブリッジ大学側の資料—」(HIROSAWA Kinjiro: 在籍確認)『松山大学論集』5-4, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 奈倉文二『兵器製鋼会社の日英関係史—日本製鋼

所と英国側株主一』cf. 広沢は日本製鋼所創立時にヴィッカーズ社側取締役 A. T. ドーソンの「代理人」として入社, 後ドーソン辞任に伴い〈1918.2〉, ヴィッカーズ社推薦の世紀の取締役就任する, 『華族家系大成』, 五十嵐栄吉『大正人名辞典』, 日本力行会『現今日本名家列伝』

藤村義朗 (1870.12.4-1933.11.27. 滞在: 1885-92 〈リーズ・スクール [確認在籍: 1887-88]〉 → ケンブリッジ大学 [Fujimura Yoshiaki, 確認在籍: St. John's, 1888-91, M 1888, A. B. 1891, 1897, 1906]〉) 京都出身, 私費留学, 私費個人視察, 私費団体視察, 目的: 経済, 帰国後勤務先: 熊本九州学院教授【資料】『東野選稿藤村義朗遺稿』, 田中恵子「英国ケンブリッジ, リーズ・スクールへの明治大正期日本人留学生」(FUJIMURA, Baron Yoshiaki Korima: 在籍確認)『青葉学園短期大学紀要』23-26, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 『日本人名大事典』, 『人事興信録』

堀切善兵衛 (1882.5-1946.11.25. 滞在: 1905.6.30-08.6 〈ハーバード大学 → ケンブリッジ大学 → ベルリン大学〉) 福島県信夫郡飯坂町出身, 私費留学, 目的: 経済学, 出身校: 慶應義塾大学部理財科, 帰国後勤務先: 慶應義塾大学部理財科教授【資料】『慶應義塾百年史』(中巻前), 『日本人名大事典』

堀敬止 (?-?. 滞在: 1901 〈St. John's College [1901] → 所属出〈1904〉 → 学位〈1906.12: 政治・経済学〉-) 目的: 経済学, 帰国後勤務先: キリスト教布教の可能性あり【資料】小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』

前田利武 (1864.12.11-1890.4.23. 滞在: 1882-85 〈Mayeda Toshitake, 確認在籍: King's College, 1882-85, M 1882 → King's College, A. B. 1885〉) 金沢出身, 私費留学, 目的: 人文系【資料】藤井泰「ケンブリッジ大学の日本人留学生 (1873-1911) — ケンブリッジ大学側の資料 —」(MAYEDA Toshitake: 在籍確認)『松山大学論集』5-4, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 『明治過去帳』

松浦厚 (1864.6-1934.5.7. 滞在: 1884-93 〈ユニバーシティ・カレッジ [Matsura, A., 確認在籍: 1887-88]〉) → ケンブリッジ大学 [Trinity College, 1890-?, M 1890]〉) 長崎県平戸出身, 私費留学, 目的: 国際法【資料】松浦伯爵家編修所

『松浦厚伯伝詩文鈔』, 藤井泰「ケンブリッジ大学の日本人留学生 (1873-1911) —ケンブリッジ大学側の資料—」『松山大学論集』5-4, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 『海外における公家』, 『華族家系大成』, 『日本人名大事典』
Manaka Naomichi (確認在籍：Newnham College, M 1885)

箕作奎吾 (1852.1.26-1971.6.14. 滞在：1866.10-68.6 〈ユニバーシティ・カレッジ・スクール [W. V. ロイド] →ケンブリッジ大学〉) 津山出身, 公費留学, 目的：人文系, 出身校：開成所, 初勤務先：開成所教授補【資料】「箕作教授略伝」『動物学雑誌』22-255, 「箕作博士年譜」『動物学雑誌』22-356, 「箕作博士記念号」『動物学雑誌』22-356, 外務省外交史料館蔵『渡航人明細鑑』, 呉秀三『箕作阮甫』, 原平三「徳川幕府の英国留学生—幕末留学生の研究—」『歴史地理』79-5, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 倉沢剛『幕末教育史の研究』, 『明治過去帳』

箕作大六→菊池大麓

三土忠造 (1871.6.25-1948.4.1. 滞在：1902.1-06.2) 高松出身, 私費留学, 目的：人文（教育学）系, 初勤務先：東京高等師範学校女教諭, 帰国後勤務先：東京高等師範学校教授【資料】広瀬英太郎『三土忠造』, 『郷土歴史人物事典香川』, 秦郁彦『戦前期日本官僚制の制度・組織人事』

陸奥広吉 (1869.3-1942.11.19. 滞在：1887-93 〈ユニバーシティ・カレッジ [Mutsu, H., 確認在籍:1887-88] →ケンブリッジ大学 [Trinity Hall, 1888.10-12 →所属無, 1890] →インナー・テンプル〉) 彦根出身, 私費留学, 目的：法律 (barrister at law 〈1893.11.17〉), 出身学校：東京大学法学部, 帰国後勤務先：東京大学講師, 代言人→英吉利法律学校（中央大学）創立参加, 臨時駐英大使(1907)【資料】都市問題研究会鎌倉班「陸奥広吉と同人会」『思想の科学』1926.1, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 下重暁子『純愛—エセルと陸奥家の人々—』, 『日本人名大事典』

村上敬次郎 (1853.9.4-1929.2.15. 滞在：1871-74 〈Moorakami Keijiro, 確認在籍：Trinity College, 1873-, M 1873〉, 1887.10.11-88.10.19) 広島出身, 公費留学, 目的：軍事, 帰国後勤務先：広島英学校教員【資料】小山騰『破天

荒〈明治留学生〉列伝』, 下村富士男『明治初年条約改正史の研究』, 『海軍兵学校沿革』, 『華族家系大成』, 『官吏進退索引』, 『広島県人名事典』, 『日本人名大事典』

毛利五郎 (1871.10.20-1925.12. 滞在: 1888.5-96 〈Mori Goro, 確認在籍: Gonville & Caius, M 1892, A. B.1895〉) 山口市出身, 私費留学, 目的: 財政・金融, 出身学校: 慶應義塾, 帰国後勤務先: 貴族院議員【資料】小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 『近代防長人物誌』, 『華族家系大成』, 五十嵐栄吉『大正人名辞典』

茂木延太郎 (?-1895.12. 滞在: 1884.3-88) 千葉県野田出身, 私費留学, 目的: 財政・金融, 出身学校: 慶應義塾【資料】『野田醤油株式会社 35 年史』, 『キッコーマン醤油史』

安広伴一郎 (1859.10.13-1951.5.29. 滞在: 1878-82, 1885-88 〈ホンコン中央書院→ケンブリッジ大学 〈Yasuhiro Banichiro, 確認在籍: Newnham College, L 1885, A. B., LL. B.1887〉) 福岡出身, 私費留学, 目的: 人文系, 法律, 出身学校: 慶應義塾, 帰国後勤務先: 第三高等中学校教員【資料】安広戌六「伯父の話」『記録』2, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 泰郁彦『戦前期日本官僚制の制度・組織・人事』, 『日本人名大事典』

Yamazaki Genjiro (1885.6.7-?. 滞在: 1911 〈Peterhouse, 1911〉-) 仙台出身, 出身校: 慶應義塾【資料】藤井泰「ケンブリッジ大学の日本人留学生 (1873-1911) —ケンブリッジ大学側の資料—」(在籍確認)『松山大学論集』5-4

吉田栄右 (1865.7.1-?. 滞在: 1894-98.6) 島根県那賀郡浜田町出身, 私費留学, 目的: 財政・金融→神学・史学, 出身学校: 慶應義塾, 帰国後勤務先: 東洋協会専門学校講師【資料】古林亀治郎『現代人名辞典』, 日本力行会『現今日本名家列伝』

Yoshida Masao (H. Sel. M 1894, A. B.1897)

吉田静致 (1872.7-1945.10.4: 滞在: 1899.5-1902.11 〈Yoshida Seichi, 確認在籍: Newnham College, M 1899 [Advanced Student] →ドイツ〉) 長野県飯山,

公留学, 目的：人文（倫理学）系, 出身校：東京帝国大学文科大学哲学科, 帰国後勤務先：東京高等師範学校教授【著作】『倫理学原論』, 『倫理学上より見たる日本精神』【資料】山田孝夫「研究室を築いた人々 1 吉田静致博士の人と思想」『精神科学』1, 山田孝夫「吉田静致博士の思想的系譜」『精神科学』2, 山田孝夫「吉田静致博士の国家観」『日本大学精神文化研究所紀要』2, 日本学士院『学問の山なみ』(2), 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『日本人名大事典』

和田垣謙三 (1860.7.14-1919.7.18. 滞在：1880.10.31-84.3 〈キングス・カレッジ→ケンブリッジ大学 [Wadagaki Kenzo, 確認在籍：Newnham College, J.1882] →ベルリン大学) 但馬国豊岡出身, 私費留学, 公費留学, 目的：理財学, 出身学校：東京大学文学部, 帰国後勤務先：文部省御用掛→東京帝国大学教授【著作】『英和辞典』, 『世界商業史』【資料】渋木直一編『吐雲余影』, 山本生「嗚呼和田垣博士」『改造』1-5, 田中貢太郎「自由伯と吐雲博士の印象」『中央公論』34-9, 神戸正雄「和田垣・内田博士の永眠を悼む」『経済論叢』9-3, 河津暹「和田垣博士の薨去」『国家学会雑誌』33-8, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 『太政類典』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『大正過去帳』, 『日本人名大事典』cf. 1880年11月に森有礼は「和田垣謙三にジェヴォンズの経済学〈講義〉を受けるように勧める」(犬塚孝明『若き森有礼』399)

渡辺米夫 (1900.3.4-1988.8. 滞在：1914-23 〈リーズ・カレッジ [確認在籍：1914-15] →ケンブリッジ大学 [Magdalene, 確認在籍：1919-23]) 【資料】田中恵子「英国ケンブリッジ, リーズ・スクールへの明治大正期日本人留学生」(WATANABE Yoneo, M. B. E. : 在籍確認)『青葉学園短期大学紀要』23-26

第 3 節 オックスフォード大学在籍者・卒業生

1. オックスフォード大学¹⁸⁾

岩倉具経（龍小二郎：1853.6-1890.10.17. 滞在：1870.1-78.11 〈アメリカ→オックスフォード大学〉）京都出身，公費留学，目的：海軍学，帰国後勤務先：大蔵権少書記官→宮中顧問官【資料】『昭和新修 華族家系大成』，『太政類典』，『明治維新大辞典』，『日本人名大事典』

内ヶ崎作三郎（1877.4.8-1947.2.4. 滞在：1908.6-11.8 〈オックスフォード大学→マンチェスター高等工芸学校〉）宮城県出身，私費留学，目的：宗教学，出身学校：東京帝国大学文科大学英文科，帰国後勤務先：早稲田大学教授【著作】『リンカーン伝』【資料】山浦貫一「教育家」『政局を繞る人々』，『早稲田大学百年史』（2），『キリスト教人名辞典』，『日本人名大事典』

大瀬甚太郎（1865.12.24-1944.5.29. 滞在：1893-97.12 〈ドイツ [ベルリン大学・ライプチヒ大学]・フランス [パリ大学]・イギリス [オックスフォード・ケンブリッジ]〉）金沢出身，公費留学，目的：人文（教育学）系，出身学校：帝国大学文科大学哲学科，初勤務先：東京高等師範学校教授，帰国後勤務先：東京高等師範学校教授兼東京帝国大学講師【著作】『欧州教育史』【資料】『回顧六十年』，『文学博士大瀬甚太郎先生小伝・略歴・著書目録』，渡辺実『近代日本留学生史』，『日本人名大事典』

大森禅戒（1871.7.14-1947.2.4. 滞在：1904-11 〈ウエストバージニア大学→オックスフォード大学→ライプチヒ大学〉）福井県板井郡出身，私費留学，目的：宗教学，出身学校：曹洞宗大学，初勤務先：曹洞宗大学，帰国後勤務先：曹洞宗大学【資料】『郷土歴史人物事典福井』，『日本仏教人名辞典』

尾崎三良（戸田三郎：1842.1.22-1918.10.13, 滞在：1868.3-73.10 〈ユニバーシティ・カレッジ [Toda, S., 確認在籍：1870-71]，オックスフォード大学 [アクワード教授]〉）京都出身，公費留学（三条公恭・中御門寛丸・毛利平六郎・森寺広三郎・城連・大野直輔・有福二郎・尾崎三良），目的：全般・外交交渉，

18) オックスフォード大学の在籍確認のために利用したのは、J. Foster, *Alumni Oxonienses*, 1891。なお、オックスフォード大学名誉博士号受賞者 (Hon. LL. D.) は、林董 [1905] (小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』224 頁) である。

初勤務先：太政官出仕【資料】『尾崎三良自叙略伝』、『維新前実歴談—講演速記録—』、『公文録』、『太政類典』、『明治人名辞典』

小此木マツ→辻マツ

笠原研寿 (1852-1883.7.16. 滞在：1876.6.14-82〈在籍：1879.10-82.9.13〉) 越中礪波郡出身, 私費留学 (大倉組社員横山孫一郎より英語を学ぶ), 目的：宗教 (サンスクリット) 関係, 出身学校：石川舜台の塾, 初勤務先：東本願寺, 帰国後勤務先：大谷教校教師【資料】南条文雄編『笠原研寿遺文集』, 南条文雄『懐旧録』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 井上琢智「日本学生会名簿」『馬場辰猪全集』(4), 『日本人名大事典』

香月経五郎 (1849-1874.4.13, 滞在：1870.9.27-73〈アメリカ〔田尻稻次郎・目賀田種太郎と同行〕→ユニバーシティ・カレッジ〔Katski, K., 確認在籍：1872-73〕→オックスフォード大学〔経済学〕〉) 肥前出身, 公費留学, 目的：財政・金融, 出身校：大学南校【資料】的野半介『江藤南白』, 『太政類典』, 石附実『近代日本海外留学生史』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『明治過去帳』, 『明治維新人名辞典』, 『日本人名大辞典』

金尾稜巖 (1854.1-1921.3.13. 滞在：1882-85〈イギリス〔8月：オックスフォード大学〕・ドイツ・オーストリア〉) 広島県出身, 私費留学, 目的：法律, 宗教関係, 帰国後勤務先：本願寺学務局→富山・島根県知事【資料】南条文雄『懐旧録』, 『大正過去帳』, 『日本人名大事典』

神田正雄 (1879.3.18-1961.8.2. 滞在：1905-09, 1917-19〈コロンビア大学→オックスフォード大学〉) 栃木県出身, 私費留学, 私費留学, 目的：法律・経済, 出身学校：東京専門学校, 初勤務先：中国四川省法律顧問, 帰国後勤務先：大阪朝日新聞【資料】『大衆人事録』(昭和14年), 『日本人名大事典』

佐々木高美 (1862.2.7-1902.7.8. 滞在：1884.5-89〈ケンブリッジ, オックスフォード〉) 土佐出身, 公費留学, 目的：人文系, 初勤務先：外務省御用掛, 帰国後勤務先：留学中, 交際官試補【資料】杉浦重剛「佐々木侯 附佐々木高美君」『知己八賢』, 杉浦重剛『回想杉浦重剛』, 『明治過去帳』

佐武安太郎 (1884.9-1959.2.14. 滞在：1910.12.10-14〈ボン大学→ペテロブル

グ大学→オックスフォード大学)) 和歌山県田辺出身, 公費留学, 目的: 医学系, 出身学校: 京都帝国大学, 初勤務先: 京都府立医学専門学校教諭, 帰国後勤務先: 東北帝国大学医科大学教授【著作】『生理学講義』【資料】「佐武安太郎教授略歴」『日本生理学雑誌』21-9, 和田正男「佐武安太郎先生を憶う」『日本生理学雑誌』21-9, 『京都府立医科大学八十年史』, 日本学士院『学問の山なみ』(3), 『大日本博士録』, 『日本人名大事典』

塩川三四郎 (1873.4.12-1965.5.3. 滞在: 1901.6-03.6) 長野県出身, 私費留学, 目的: 財政・金融, 出身学校: 東京帝国大学法科大学, 初勤務先: 帝国商業銀行試補, 帰国後勤務先: 日本銀行【資料】五十嵐栄吉『大正人名辞典』, 『大衆人事録』

島村竜太郎 (島村抱月: 1871.1.10-1918.11.5. 滞在: 1902.3-05.9 (オックスフォード大学→ベルリン大学)) 島根県那賀郡出身, 私費留学, 目的: 人文系, 出身学校: 東京専門学校, 初勤務先: 東京専門学校講師, 帰国後勤務先: 早稲田大学文学科講師【著作】『新美辞学』, 『近代文芸之研究』, 『近代批評の意義』【資料】「島村抱月氏略伝・略年譜・著書目録」『早稲田文学』2-157, 『島村抱月全集』, 『日本近代文学大事典』, 『日本人名大事典』

菅了法 (1857.2.7-1936.7.26. 滞在: 1883-?) 島根県出身, 私費留学 (西本願寺より派遣・南条文雄と親交), 目的: 人文系, 出身校: 慶應義塾【資料】川口久雄編『幕末明治海外体験詩集』, 圭室諦成『日本近代文学大事典』, 『近代日本哲学思想家辞典』, 『昭和物故人名録』

斯波貞吉 (1869.8.17-1939.10.14. 滞在: 1889.3-91.10) 福井出身, 私費留学, 目的: 人文系, 出身学校: 帝国大学文科大学英文科専科, 帰国後勤務先: 帝国大学文科大学英文科専科再入学, 早稲田大学文学科講師【著作】『国家的社会論』【資料】『日本人名大事典』, 『国史大辞典』

高楠順次郎 (1866.5-1945.6.21. 滞在: 1890-97) 広島出身, 私費留学, 目的: 人文 (言語学, インド学) 系, 出身学校: 西本願寺普通教校, 帰国後勤務先: 東京帝国大学文科大学講師【著作】『大正新修大蔵経』, 『国訳南伝大蔵経』, 『高楠順次郎全集』【資料】鷹谷俊之『高楠順次郎先生伝』, 小山騰『破天荒

〈明治留学生〉列伝』, 日本力行会『現今日本名家列伝』, 日本学士院『学問の山なみ』(2), 『近代日本哲学思想家辞典』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『日本人名大事典』

立花俊道 (1877.10.17-1955.4.2. 滞在：1903.11-08.8, 1919.9-22.3) 佐賀県杵島出身, 私費留学, 私費留学, 目的：宗教関係, 出身学校：曹洞宗大学林, 帰国後勤務先：曹洞宗大学林講師【著作】『巴利語文典』, 『原始仏教と禅宗』, 『仏教大綱』【資料】『駒沢大学八十五年史』, 『日本仏教人名辞典』

辻マツ (小此木マツ：1882.11.23-1965.11.18. 滞在：1907.3-10.8 〈ウェルズレー大学→オックスフォード大学〉) 福島出身, 公費留学, 目的：英語・英文学, 出身学校：女子高等師範学校, 女子英学塾選科, 帰国後勤務先：東京女子高等師範学校付属高等女学校教諭【資料】『津田塾六十年史』, 『昭和物故人名録』

戸田三郎→尾崎三良

豊田貞次郎 (1885.8.7-1961.11.21. 滞在：1911.12-14.10) 和歌山出身, 公費留学, 目的：法律, 出身学校：海軍兵学校, 海軍大学校, 初勤務先：海軍少尉, 帰国後勤務先：海軍省出仕【資料】日本ウジミナス編刊『豊田貞次郎回想録』, 永田一角「豊田と左近司」『改造』23-6, 白木正之「豊田と鈴木」『改造』23-9, 日本近代史料研究所『日本陸海軍の制度・組織・人事』, 『日本人名大事典』

永井柳太郎 (1881.4.16-1944.12.4. 滞在：1908.5-9.11) 金沢市出身, 私費留学, 目的：人文(植民地政策, 社会政策)系, 出身学校：関西学院普通学部→早稲田大学政治経済学科, 帰国後勤務先：早稲田大学教授【著作】『植民政策原論』, 『イギリス人氣質』, 『私の信念と体験』【資料】永井柳太郎「私の自己紹介」『中央公論』, 永井柳太郎伝記編纂会編『永井柳太郎』, 馬場恒吾「永井柳太郎」『中央公論』47-11, 日本交通協会『鉄道先人録』, 『早稲田大学百年史』, 『関西学院百年史』, 『関西学院事典』, 『日本キリスト教歴史大事典』, 『日本人名大事典』

鍋島直大 (1846.3-1921.3. 滞在：1871.11-74.7.20, 1874.8-78.7.20) 佐賀県出

身, 私費留学, 目的: 人文(文学)系, 出身学校: 草場瑳助師事, 帰国後勤務先: 外務省御用掛【資料】「名誉会員鍋島直大侯薨去」『建築雑誌』35-418, 岡田実『鍋島直大公事績』, 『太政類典』, 『穂積歌子日記—1890-1906—』, 『佐賀県・歴史人名辞典』, 『大日本人名辞典』, 『日本人名大事典』

南条文雄(1849-1927. 滞在: 1876-84, 1887, 1900〈在籍: 1879.2.22-84 M. A. 取得〉) 岐阜県大垣出身, 私費留学, 私費個人視察目的, 私費団体視察: 宗教(サンスクリット) 関係, 出身学校: 高倉学寮, 帰国後勤務先: 東京大学講師【資料】川口久雄編『幕末明治海外体験詩集』, 『南条文雄自叙伝』, 南条文雄『懐旧録』, 『南条文学博士小伝』, 「南条先生年譜」『大谷学報』9-1, 「南条文雄博士追悼録」『大谷学報』9-1, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 井上琢智「日本学生会名簿」『馬場辰猪全集』(4), 『日本人名大事典』

蜂須賀茂韶(1846.8.8-1918.2.10. 滞在: 1872.1.27-79.1) 江戸徳島藩邸出身, 私費留学, 目的: 人文系, 出身校: 学習院, 初勤務先: 徳島藩主, 帰国後勤務先: 外務省御用掛【資料】村雨退二郎「民権運動の先覚者蜂須賀茂韶」『史談蚤の市』, 露木亀太郎『蜂須賀茂韶公隠れたる功績』, 『昭和新修華族家系大成』, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 『太政類典』, 石附実『近代日本の海外留学史』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『明治維新人名辞典』, 五十嵐栄吉『大正人名辞典』, 『大正過去帳』, 『日本人名大事典』

百武兼行(安太郎: 1842.6.7-1884.12.21. 滞在: 1871.12.23-74.7.20, 1874.8-79, 1880. 7.9-82.7.25) 肥前出身, 私費留学, 私費留学, 公費団体視察, 目的: 財政・金融, 芸術系【資料】『近代日本美術全集』(3), 佐藤靄子編『日本名画家伝—物故編—』, 『シーボルトの絵師—埋もれていた三人の画業—』, 『郷土史に輝く人びと』, 『太政類典』, 『明治過去帳』, 『日本人名大事典』

平田秃木(喜一: 1873.2.10-1943.3.13. 滞在: 1872.1.27-79.1) 東京日本橋出身, 公費留学, 目的: 人文(英文)系, 出身校: 高等師範学校英語専修科, 初勤務先: 東京師範学校附属中学校教諭, 帰国後勤務先: 東京師範学校教授【著作】『最近英文学の研究』, 『英文学印象記』, 『英文学散歩』【資料】星野天

知『黙歩七十年』, 福原麟太郎『平田禿木追憶』, 増田五良『文学界記伝』, 『近代日本文学大事典』, 『日本人名大事典』

堀賢雄 (1880.12.5-?. 滞在: 1900-07) 私費留学, 目的: 人文 (史学, 地学) 系, 出身校: 本願寺文学寮, 帰国後勤務先: 真宗本願寺派僧侶【資料】『本願寺史』(3), 井上泰岳『現代仏教家人名辞典』

松平慶民 (1882-1948.7.18. 滞在: ?-?) 東京出身, 出身校: 学習院, 1906 年子爵, 侍従兼式部官, 式部次長兼宗秩寮宗親課長 (1930 年), 式部長官 (1934 年), 宮内相 (1946 年)【資料】入江相政「最後の宮内大臣」『文芸春秋』38-2, 『松方正義関係文書』(10), 『新潮日本人名辞典』

三谷民子 (1873.2.16-1945.4.1. 滞在: 1897-99, 1907-08 (ノースフィールド大学→オックスフォード大学)) 京都府与謝郡出身, 私費留学, 私費留学, 目的: 人文系, 出身校: 女子学院, 初勤務先: 高田女学校教師, 帰国後勤務先: 女子学院教師【資料】キリスト教学校教育同盟『日本キリスト教教育史』(人物編), 『日本キリスト教歴史大事典』

南岩倉具威 (1869.6.2-1945.10. 滞在: 1890-95) 京都出身, 公費留学, 目的: 法律, 出身校: 学習院, 帰国後勤務先: 内務大臣秘書官【資料】『華族家系大成』, 『学習院百年史』(1), 古林亀治郎『現代人名辞典』

森常太 (1864.12-?. 滞在: 1878-90) 岡山県出身, 私費留学, 目的: 法律, 出身校: 井上毅に師事, 帰国後勤務先: 国華新聞主筆【資料】『日本現今人名辞典』

第5節 オウエンズ・カレッジ在籍者・卒業生

1. オウエンズ・カレッジ

市川盛三郎 (森三郎, 平岡盛三郎: 1852.8-1882.10.26: 滞在: 1866.10-68 (ユニバーシティ・カレッジ・スクール [W. V. ロイド] →ユニバーシティ・カレッジ→マンチェスター大学 [B. ステュアート]), 1877.5.79-) 江戸福井藩邸出身, 公費留学, 私費留学 (杉浦重剛・桜井錠二・穂積陳重・井上勝之助・岡村輝彦と交友), 目的: 理学 (数物) 系, 帰国後勤務先: 東京大学理学部講師 (2 回目)【著作】『ロスコー化学小学』【資料】原平三「市川盛三郎」

『伝記』9-3/4, 杉浦重剛「市川盛三郎略伝」『東洋学芸雑誌』14, 原平三「徳川幕府の英国留学生—幕末留学生の研究—」『歴史地理』79-5, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 日蘭学会編『洋学史事典』

後藤牧太 (1853-1930.3.25. 滞在: 1887.5-90 〈オウエンズ・カレッジ→グラスゴウ大学〉) 三河国出身, 公費留学, 目的: 理学 (数物) 系, 出身校: 慶應義塾, 初出勤先: 慶應義塾教師, 帰国後勤務先: 高等師範学校教授【資料】三宅米吉「後藤牧太先生小伝」『文学博士三宅米吉著述集』(下), 北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『日本人名大事典』

杉浦重剛 (1855-1924.2.13. 滞在: 1876.6.25-80.5.18 〈サイレンセスター農学校 [1876.8.18-76.9] →オウエンス・カレッジ [1876.12-] →サウス・ケンジントン化学学校 [78.10-] →ユニバーシティ・カレッジ [Sugiura, S., 確認在籍: 1879-80]〉) 滋賀県膳所出身, 公費留学, 目的: 理学 (化学) 系, 出身校: 東京開成学校, 帰国後勤務先: 東京大学理科博物場掛取締【著作】『日本教育原論』, 『日本通鑑』, 明治教育史研究会『杉浦重剛全集』【資料】大町桂月『杉浦重剛先生』, 回想杉浦重剛編集委員会『回想杉浦重剛—その生涯と業績—』, 小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』, 唐沢富太郎『教育人物辞典』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『太政類典』, 井上琢智「日本学生会名簿」『馬場辰猪全集』(4), 『日本人名大事典』

高松豊吉 (1852.9.11-1937.9.27. 滞在: 1879-82, 1900-01 〈オウエンズ・カレッジ→ベルリン大学〉) 江戸出身, 公費留学, 公費個人視察, 目的: 理学 (化学) 系, 出身校: 東京大学理学部, 帰国後勤務先: 東京師範学校教師【資料】高松博士祝賀伝記刊行会『工学博士高松豊吉伝』, 『太政類典』, 日本学士院『学問の山なみ』(1), 石附実『近代日本の海外留学史』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『日本人名大事典』

中村貞吉 (1858-1895.7.17 滞在: 1885.5.31-86.4) 愛知県出身, 公費留学, 目的: 理学 (化学) 系, 出身校: 工部大学校化学科, 初勤務先: 工部省御用係, 帰国後勤務先: 帝国大学工科大学助教授【資料】梅溪昇『日本近代化の諸相』,

『旧工部大学史料』, 『公文録』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『明治過去帳』

平岡盛三郎→市川盛三郎

平賀義美 (1857.8.6-1943. 滞在: 1878.11-81.7, 1887.6-88.9) 福岡県出身, 私費留学, 私費個人視察, 目的: 理学 (有機化学) 系, 工学系, 出身校: 東京大学理学部, 帰国後勤務先: 東京職工学校雇【著作】『日本興業教育論』【資料】平賀義美「回想随想」『科学』8-10, 秋山広太郎編『平賀義美先生』, 山内英太郎「平賀義美先生を偲びまつりて」『染色時報』678, 日蘭学会『洋学史事典』, 『大日本博士録』

2. マンチェスター大学

上田貞次郎 (1879.5.12-1940.5.8: 滞在: 1905.9-09.1, 1913-14 (マンチェスター大学→ボン大学)) 東京出身, 公費留学, 公費留学, 目的: 財政・金融 (商事経済学), 出身校: 高等商業学校, 初勤務先: 高等商業学校, 帰国後勤務先: 東京高等商業学校教授【著作】『株式会社経済論』, 『社会改造と企業』, 『日本人口政策』【資料】上田貞次郎『上田貞次郎日記』, 上田正一『上田貞次郎伝』, 金子鷹之助「上田貞二郎伝」『一橋論叢』53-4, 小泉信三「上田貞次郎」『文芸春秋』19-7, 日本学士院『学問の山なみ』, 『大日本博士録』, 『日本人名大事典』

岡見慎二 (1883.2.2-?: 滞在: 1907.9-15.5 (コロンビア大学→マンチェスター大学)) 中津出身, 私費留学, 目的: 人文 (教育制度) 系, 出身校: 早稲田大学, 帰国後勤務先: 頌栄女学校顧問【資料】『頌栄女子学院百年史』

吉川晴十 (1885.8.6-1952.6.5. 滞在: 1911.7-13 (ドイツ・イギリス), 1916.7-17.1 (イギリス): シャロテンブルグ工科大学→マンチェスター大学) 諏訪津出身, 公費留学, 公費個人視察, 目的: 工学 (冶金) 系, 出身校: 東京帝国大学工科大学, 初勤務先: 海軍造兵技士, 帰国後勤務先: 呉海軍工廠製鋼部【資料】『大日本博士録』, 『日本人名大事典』

松原行一 (1872.5.22-1955.11.8: 滞在: 1902-06 (マンチェスター大学→ベル

リン大学)) 愛知県出身, 公費留学, 目的: 理学 (化学) 系, 出身校: 帝国大学理科大学, 初勤務先: 第二高等学校教授, 帰国後勤務先: 東京帝国大学理科大学助教授【資料】都築洋次郎「松原行一先生の思い出」『科学』26-5, 『帝国大学出身名鑑』(昭和 7 年), 『東京大学百年史』(部局史 2), 『昭和物故人名録』

第 6 節 トインビー・ホール・カレッジ在籍者・卒業生

金井延 (1865.2-1933.8.13. 滞在: 1886.7-90.11 〈トインビー・ホール・カレッジ→ドイツ〉) 遠州見付出身, 公費留学, 目的: 財政・金融 (理財学), 出身校: 東京大学文学部政治学理財学科, 帰国後勤務先: 帝国大学法科大学教授【著作】『社会経済学』, 『経済学研究方法』【資料】河合栄治郎『金井延の生涯と業績』, 本位田祥男「金井延博士を悼む」『(東大) 経済論集』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『日本現今人名辞典』, 『日本人名大事典』

第 7 節 エジンバラ大学在籍者・卒業生

石神豊胤 (1853-1878.11.9 〈ロンドン客死〉. 滞在: 1873.10-78) 鹿児島県出身, 私費留学, 公費留学, 目的: 医学 (エジンバラ) 系・兵学【資料】『太政類典』, 『明治過去帳』

小川資源 (1852.5.21-1910.7.25 : 滞在: 1873.3-75 〈エジンバラ工科大学〉) 萩出身, 公費留学, 目的: 工学 (測量技術) 系, 出身校: 大学南校, 初勤務先: 工部省測量司技術一等見習, 帰国後勤務先: 工部大学校助教授【資料】『工部省沿革報告』, 『旧工部大学校史料』, 『太政類典』, 日本交通協会『鉄道先人録』, 石附実『近代日本の海外留学史』

織田純一郎 (丹羽純一郎: 1851.5.2-1919.2.3 : 滞在: 1870.11-74.7, 1874.10-1877) 京都出身, 公費留学, 公費留学, 目的: 全般・外交交渉, 出身校: 昌平黌【著作】『通俗日本国会論』, 『政事家社会』, 『黒怪疑員』【資料】平山鈴子「近代文学研究資料 263 織田純一郎伝」『学苑』250, 『日本近代文学大事典』, 『太政類典』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『大正過去帳』

蔵原惟郭 (1861.7.6-1949.1.8：滞在：1884-91) 熊本出身，私費留学，目的：人文（歴史学・倫理学）系，出身校：熊本洋学校【資料】三井久・竹中正夫『近代日本の青年群像』，『国史大辞典』

杉甲一郎 (?-?：滞在：1872.5-74.7.7, 1882.12-83.4.19 〈エジンバラ大学→スティブソン社灯台〉) 東京出身，公費留学，私費留学，目的：灯台技術，帰国後勤務先：工部大学校図学助手→教授【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』，『旧工部大学校史料』，『公文録』，石附実『近代日本の海外留学史』

都留仙吉 (1884.1.20-1964.1.20：滞在：1907-11 〈オーバン神学校→エジンバラ大学〉) 大分県宇佐郡出身，私費留学，目的：宗教（神学）関係，出身校：明治学院神学部，帰国後勤務先：明治学院神学部助教授【資料】『フェリス女学校 100 年史』，『日本キリスト教歴史大事典』，『大衆人事録』

成川義太郎 (1867.3-?：滞在：1886-92 〈コーネル大学→エジンバラ大学〉) 千葉県出身，私費留学，目的：法律，出身校：東京外国語学校，帰国後勤務先：日銀行国局勤務【資料】『日本現今人名辞典』

丹羽純一郎→織田純一郎

福田令寿 (1872.12.7-1973.8.7：滞在：1893-02 〈エジンバラ大学→マールベルク大学〉) 熊本県下益城郡出身，私費留学，目的：医学（産婦人科）系，出身校：熊本医学校，帰国後勤務先：京都で開業【著作】『百年史の証言』【資料】『熊本県大百科事典』，『日本医事大鑑』，『日本キリスト教歴史大事典』

藤倉見達 (?-?：滞在：1871-74) 滋賀県膳所出身，公費留学，目的：工学（灯台技術）系，帰国後勤務先：工部省灯台寮出仕【資料】『改正官員録』（明治 19 年版），『太政類典』，『日本灯台史』，北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』，石附実『近代日本の海外留学生史』，『人事興信録』（第 9 版）

水崎基一 (1871.9.28-1937.11.29. 滞在：1899-1902 〈エジンバラ大学→ロンドン大学〉) 長野県東筑摩郡出身，私費留学，目的：財政・金融，出身校：同志社，初勤務先：北海道樺戸集治監教誨師【資料】浅野総合中学校編刊『追悼

故水崎基一先生』、『横浜 YMCA 百年史』、『日本キリスト教歴史大事典』

第 8 節 グラスゴウ大学在籍者・卒業生

1. グラスゴウ・スコットランド西部技術短大

岩崎秀弥 (?-1911. 滞在：1901 〈19 歳：グラスゴウ・スコットランド西部技術短大→グラスゴウ大学→ケンブリッジ大学〉) 目的：造船学, 蒸気機関【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』、『岩崎久弥伝』、『財界物故傑物伝』(上)

近藤滋弥 (1882.9.17-1953. 滞在：1904-09 〈リーズ・スクール [1902-03] →グラスゴウ・スコットランド西部技術短大→グラスゴウ大学 [1909 卒業]〉) 徳島県出身, 私費留学, 目的：工学(造船学)系, 帰国後勤務先：東京鉄道会社技師【資料】田中恵子「英国ケンブリッジ, リーズ・スクールへの明治大正期日本人留学生」(KONDO Baron Shigeya：在籍確認)『青葉学園短期大学紀要』23-26, 北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』、『大衆人事録』(昭和 14 年), 『昭和物故人名録』

杉山文七 (?-?. 滞在：1903-04 〈グラスゴウ・スコットランド西部技術短大→フェアフィールド造船所〉) 目的：蒸気機関, 海事工学, 帰国後勤務先：サルベージ事業のパイオニア【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』

堤佐久間 (?-?. 滞在：1901 〈27 歳〉-02 〈グラスゴウ・スコットランド西部技術短大→グラスゴウ大学〉) 目的：機械工学・造船学【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』cf. 「堤正己」の項参照(『明治過去帳』)

富山アーサ (?-1892.7. 滞在：1900 〈29 歳〉-01 〈アメリカ→グラスゴウ・スコットランド西部技術短大→グラスゴウ大学〉) 目的：造船学・機械工学【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』、『明治過去帳』

増田清一 (?-?. 滞在：1904-06 〈グラスゴウ・スコットランド西部技術短大→

グラスゴウ大学→ドイツ)) 目的：機械工学, 蒸気機関, 船舶機関学, 出身校：東京帝国大学工科大学機械学科(1900 卒業), 帰国後勤務先：大阪高等工業学校教授【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 『人事興信録』(第七版), 『帝国大学出身名鑑』

松田清一 (1876.8-?. 滞在：1903-06 (グラスゴウ・スコットランド西部技術短大→グラスゴウ大学)) 東京出身, 公費留学, 目的：工学 (機械工学・船用機関学) 系, 出身校：東京帝国大学工科大学機械工学科, 初勤務先：大阪高等工業学校教授, 帰国後勤務先：大阪高等工業学校教授【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 『帝国大学出身名鑑』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』

2. グラスゴウ大学¹⁹⁾

荒川新一郎 (1857-1930. 滞在：1880.2.8-83.2 (グラスゴウ大学)) 山口出身, 公費留学, 目的：工学 (紡織学) 系, 出身校：工部大学校機械科 (第一回卒業生として石橋絢彦・高峰譲吉・辰野金吾らと留学), 帰国後勤務先：農商務省御用掛【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 『旧工部大学校史料』

岩崎秀弥 (?-1911. 滞在：1901 (19 歳：グラスゴウ・スコットランド西部技術短大→グラスゴウ大学→ケンブリッジ大学)) 目的：造船学, 蒸気機関【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 『岩崎久弥伝』, 『財界物故傑物伝』(上)

岩佐武弥太 (1862.6.23-?. 滞在：1887-93) 青森県八戸出身, 私費留学, 目的：工学 (造船, 機械工学) 系, 出身校：横須賀造船所学舎, 帰国後勤務先：海軍

19) グラスゴウ大学の在籍確認のために利用したのは主として、北政巳「工部大学校とグラスゴウ大学—日蘇関係史の一視点—」(『社会経済史』第 46 巻第 5 号、1980) および北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』(同文館、1984) である。北により確認されている人物については、【資料】に北の上掲書を記入している。

なお、グラスゴウ・スコットランド西部技術短大学校は、当時グラスゴウ大学工学部への予科で、帰国後グラスゴウ大学で教授職を得られなかったダイアーが創立した学校である (北政巳前掲書および三好信浩『ダイアーの日本』福村出版、1989)。

造船小技師【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 『日本現今人名辞典』

岩根友愛 (1874.12-?. 滞在: 1900-06) 長野県出身, 公費留学, 目的: 工学 (機械工学) 系, 出身校: 東京高等工業学校, 初勤務先: 大阪高等工業学校助教授, 帰国後勤務先: 大阪高等工業学校教授【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』

浦野喜三郎 (1857.9.13-?. 滞在: 1900-01) 江戸出身, 公費留学, 目的: 工学 (機械工学) 系, 出身校: 海軍兵学校, 初勤務先: 海軍機関士副, 帰国後勤務先: 海軍機関少佐【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 海軍教育本部『帝国海軍教育史』(7), 『東京社会辞彙』(大正 2 年), 古林亀治郎『現代人名辞典』

大久保立 (1871.4.23-1941.2.4. 滞在: 1895-99.7 (王立技術学校→アームストロング社エルジツク造船所→グラスゴウ大学→ロブニツ造船所)) 東京出身, 私費留学, 目的: 工学 (造船学) 系, 出身校: 海軍機関学校, 帰国後勤務先: 海軍呉造船廠少技師【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 外山操編『陸海軍将官人事総覧』(海軍編), 『日本現今人名辞典』cf. 田口卯吉「大久保一翁逝けり」『田口卯吉全集』, 「大久保一翁伝」『旧幕臣』3

小田切延寿 (1874.10-?. 滞在: 1897-99) 山形県米沢出身, 公費留学, 目的: 工学 (機械工学) 系, 出身校: 海軍機関学校, 帰国後勤務先: 海軍少機関士【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 海軍教育本部『帝国海軍教育史』(7), 『人事興信録』(9 版)

風間篤次郎 (1874-1947. 滞在: 1899-01) 広島県出身, 公費留学, 目的: 工学 (機械工学) 系, 出身校: 海軍機関学校, 帰国後勤務先: 造船監督官兼海軍技術本部付【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 『松岡静雄滞欧日記』, 海軍教育本部『帝国海軍教育史』(7)

加茂正雄 (1876.8.15-1960. 滞在: 1906.8-12.10) 松山出身, 公費留学, 目的: 工学 (船舶機関学) 系, 出身校: 東京帝国大学工科大学機械工学科, 初勤務

先：東京帝国大学工科大学助教授，帰国後勤務先：東京帝国大学工科大学教授【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』，『大日本博士録』

川田龍吉（竜吉：1856.3.14-1951.2.9. 滞在：1873-81〈グラスゴウ大学→スコットランド・ドック会社〉）土佐出身，私費留学，目的：工学（造船技術）系，帰国後勤務先：郵便汽船三菱会社所属造船鉄工所勤務【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』，北海道総務部行政資料室『北海道開拓功労者関係資料集録』

小島門弥（1870.3.3-1907.3.27. 滞在：1897.7-99.6）岐阜県大垣市出身，公費留学，目的：工学（造船学）系，出身校：帝国大学工科大学造船学科，初勤務先：船舶司検所司検官補，帰国後勤務先：通信技師管船局勤務【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』，『造船協会会報』6

小林俊次郎（1880.9.30-?. 滞在：1912.1-15.3）明石出身，公費留学，目的：工学（機械工学）系，出身校：東京帝国大学工科大学機械工学科，初勤務先：長崎三菱造船所雇，帰国後勤務先：九州帝国大学工科打愛学教授【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』，『大日本博士録』，渡辺実『近代日本海外留学生史』

後藤牧太（1853-1930.3.25. 滞在：1887.5-90〈オウエンズ・カレッジ→グラスゴウ大学〉）三河国出身，公費留学，目的：理学（数物）系，出身校：慶應義塾，初出勤先：慶應義塾教師，帰国後勤務先：高等師範学校教授【資料】三宅米吉「後藤牧太先生小伝」『文学博士三宅米吉著述集』（下），北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』，渡辺実『近代日本海外留学生史』，『日本人名大事典』

近藤滋弥（1882.9.17-1953. 滞在：1904-09〈リーズ・スクール [1902-03] →グラスゴウ・スコットランド西部技術短大→グラスゴウ大学 [1909 卒業]〉）徳島県出身，私費留学，目的：工学（造船学）系，帰国後勤務先：東京鉄道会社技師【資料】田中恵子「英国ケンブリッジ，リーズ・スクールへの明治大正期日本人留学生」（KONDO Baron Shigeya：在籍確認）『青葉学園短期大

- 学紀要』23-26, 北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 『大衆人事録』(昭和 14 年), 『昭和物故人名録』
- サイトウ・ウンジロウ (滞在: 1908 〈33 歳〉-09) 【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』
- サトウ・ゴウジ (滞在: 1898 〈19 歳〉-1902) 【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』
- 佐野籐次郎 (1869.6.19-1929.11.7. 滞在: 1893.11-98.5) 名古屋出身, 公費留学, 目的: 工学 (土木技師) 系, 出身校: 帝国大学工科大学土木工学科, 帰国後勤務先: 大阪市技師【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 『大日本博士録』, 『近代水道百人』
- シクラ・ミツツグ (滞在: 1907 〈27 歳〉-09) 【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』
- 志田林三郎 (1855-1892.1.4. 滞在: 1880.2.8-83.4, 1883.9-83) 佐賀出身, 公費留学, 公費団体視察, 目的: 工学 (電信学) 系, 出身校: 工部大学校電信科, 帰国後勤務先: 工部省御用掛 (電信局出勤)【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 『公文録』, 『旧工部大学校史料』, 『大日本博士録』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『明治過去帳』
- 進経太 (1864-1932.12.24. 滞在: 1885-88) 山口出身, 私費留学, 目的: 工学 (機械工学) 系, 出身校: 工部大学校機械科, 帰国後勤務先: 石川島造船所【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 『近世防長人名辞典』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『日本人名大事典』
- 鈴木四十 (1874.12.21-1928.7.27. 滞在: 1888-02) 横浜出身, 私費留学, 目的: 工学系, 出身校: 第三高等学校工学部, 帰国後勤務先: セールフレザー会社入社【資料】『日本人名大事典』
- スズキ・ヨシオ (滞在: 1898 〈23 歳〉-1900) 北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』
- 須田利信 (1856-1925.5.25. 滞在: 1887-92) 宮崎県都城出身, 私費留学, 目的: 工学 (造船学) 系, 出身校: 工部大学校機械科, 初勤務先: 工部省技手, 帰国

後勤務先：日本郵船会社【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』、『旧工部大学校史料』、『大日本博士録』、『日本人名大事典』

荘田泰蔵（?-?. 滞在：1911〈19歳〉）目的：工学（機械工学）系，帰国後勤務先：三菱造船神戸造船所→三菱重工業相談役→日本航空協会会長【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』、『人事興信録』（第30版）

高山直質（?-1886.3.7. 滞在：1880.2.8-82.11.6〈グラスゴウ大学→マザウエル鉄工所〔グラスゴウ〕〉）熊本県出身，公費留学，目的：工学（機械学）系，出身校：工部大学校機械科，帰国後勤務先：工部省御用掛【資料】「高山直質氏之小伝」『工学会誌』53，北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』、『旧工部大学校史料』，渡辺実『近代日本海外留学生史』，『明治過去帳』

竹田政盛（滞在：1899〈38歳〉-1900〈グラスゴウ大学医学部〉）目的：耳鼻・咽喉学，出身校：駒場農業大学，先勤務先：農商務省特許局（高峰譲吉の部下），帰国後勤務先：海軍軍医→東京化学肥料会社取締役（渋沢栄一の援助）→小倉鉄道会社社長【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』

田中館愛橘（1856.11.16-1952.5.21. 滞在：1888.7-91.7〈グラスゴウ大学→ベルリン大学〉）岩手県出身，公費留学，目的：理学（電気磁気学）系，出身校：東京大学理学部物理科初勤務先：東京大学理学部准助教授，帰国後勤務先：帝国大学理科大学教授【資料】田中館愛橘「和生洋育わが生活信条」『中央公論』65-8，田中館愛橘「一橘から赤門へ1-4」『科学』4-6，4-8，4-9，7-7，「田中館愛橘年譜」『ローマ字世界』42-9，中村清二『田中館愛橘』，北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』，小山騰『破天荒〈明治留学生〉列伝』，『ケルヴィン卿書簡集』，日本学士院『学問の山なみ』（3），渡辺実『近代日本海外留学生史』，『日本人名大事典』

谷口直吉（1855.11-?. 滞在：1876.6.25-81）堺出身，公費留学，目的：工学（土

木工学)系, 出身校: 東京開成学校, 帰国後勤務先: 東京職工学校雇【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 『ケルヴィン卿書簡集』, 『太政類典』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『日本現今人名辞典』

堤佐久間 (?-?. 滞在: 1901 〈27 歳〉-02 〈グラスゴウ・スコットランド西部技術短大→グラスゴウ大学〉) 目的: 機械工学・造船学【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』cf. 「堤正己」の項参照(『明治過去帳』)

寺野精一 (1868.11-1923.1.8. 滞在: 1897-99) 名古屋出身, 公費留学, 目的: 工学(造船学)系, 出身校: 帝国大学工科大学, 帰国後勤務先: 東京帝国大学工科大学教授【資料】「工学博士寺野精一氏薨去」『水産界』485, 「逝ける寺野博士の面影」『水産界』483-487, 北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 日本力行会『現今日本名家列伝』, 『日本人名大事典』

トカイ・ユウゾウ (滞在: 1908 〈31 歳〉-09)【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』

富山アーサ (?-1892.7. 滞在: 1900 〈29 歳〉-01 〈アメリカ→グラスゴウ・スコットランド西部技術短大→グラスゴウ大学〉) 目的: 造船学・機械工学【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 『明治過去帳』

内藤政共 (1859.2.28-1902.11.22. 滞在: 1881.9.7-85) 三河挙母出身, 私費留学, 目的: 工学系, 出身校: 工部大学校機械科, 帰国後勤務先: 海軍省出仕【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 『旧工部大学校史料』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『明治過去帳』

中島與曾八 (1868.2-1929.10.6. 滞在: 1899.6.-01.11) 静岡県出身, 公費留学, 目的: 工学(機械工学)系, 出身校: 海軍機関学校, 初勤務先: 海軍機関士, 帰国後勤務先: 海軍大学校教官【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 『大日本博士録』, 『日本大人名事典』

ニシオカ・タツゾウ（滞在：1908〈27歳〉-10）【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』

範多龍太郎（平野龍太郎：1871.1-1936.11.10. 滞在：1886-93）兵庫県出身，私費留学，目的：工学（土木工学）系，出身校：神戸商業講習所，帰国後勤務先：大阪鉄工所【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』，井上琢智「E. H. ハンターと大阪鉄工所」『大阪春秋』19，『大日本博士録』，奈倉文二『兵器製鋼会社の日英関係史—日本製鋼所と英国側株主—』

ハンター・エドワード（英徳：?-1936. 滞在：1906-13）目的：造船学・機械工学，帰国後勤務先：大阪鉄工所【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』，井上琢智「E. H. ハンターと大阪鉄工所」『大阪春秋』19

平田重太郎（?-?. 滞在：1889〈20歳〉-90）目的：造船学【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』

平野龍太郎→範多龍太郎

福沢三八（1881.7.14-1962.7.31, 滞在：1900〈19歳〉-04〈在英：グラスゴウ大学→ライプチヒ大学〉）目的：土木工学，出身校：慶應義塾大学部文科三年在籍中，帰国（1906.6）後勤務先：時事新報社学芸部員→慶應義塾大学予科教員・藤原工業大学（慶應義塾大学工学部）創立時教員【資料】丸山信編『福沢諭吉とその門下書誌』，高橋誠一郎「福沢三八君」『三田評論〈エピメテウス〉』608，田島一郎「福沢三八先生を憶ふ」『三田評論』609，北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』

藤井光五郎（?-1914. 滞在：1896〈24歳〉-99）目的：造船学・機械工学【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』

増田清一（?-?. 滞在：1904-06〈在英：グラスゴウ・スコットランド西部技術短大→グラスゴウ大学→ドイツ〉）目的：機械工学，蒸気機関，船舶機関学，出身校：東京帝国大学工科大学機械学科（1900卒業），帰国後勤務先：大阪高等工業学校教授【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットラ

ンドの絆一』、『人事興信録』(第 7 版),『帝国大学出身名鑑』

増田礼作 (1854-1917.11.27. 滞在: 1876.6.25-81 〈グラスゴウ大学→マクラレン鉄工所 [グラスゴウ] →ブライス・ガンピンク工場 [エディバラ]〉) 大分県出身, 公費留学, 目的: 工学系, 出身校: 東京開成学校, 帰国後勤務先: 日本鉄道会社師長【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆一』,『太政類典』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』

松田清一 (1876.8-?. 滞在: 1903-06 〈グラスゴウ・スコットランド西部技術短大→グラスゴウ大学〉) 東京出身, 公費留学, 目的: 工学 (機械工学・船用機関学) 系, 出身校: 東京帝国大学工科大学機械工学科, 初勤務先: 大阪高等工業学校教授, 帰国後勤務先: 大阪高等工業学校教授【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆一』,『帝国大学出身名鑑』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』

真野文二 (1861.11-1946.10.17. 滞在: 1886-89.6 〈グラスゴウ大学→アームストロング社〉) 江戸出身, 公費留学, 目的: 工学 (機械工学) 系, 出身校: 工部大学校機械科, 初勤務先: 工部省出仕, 帰国後勤務先: 帝国大学工科大学教授→九州帝国大学総長【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆一』,『沼津兵学校と其人材』,『大日本博士録』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』,『ケルヴィン卿書簡集』

南清 (1856-1904.1.18. 滞在: 1880.2.8-83.2 〈グラスゴウ大学→マクラレン鉄工所 [グラスゴウ] →リオティント鉱山鉄道 [スペイン] →カレドニアン鉄道 [スコットランド]〉) 福島県会津出身, 公費留学, 目的: 工学 (土木・鉄道) 系, 出身校: 工部大学校土木科, 帰国後勤務先: 工部省御用掛【資料】速見太郎『南清伝 村上亮一遺稿』, 村上享一『故工学博士南清君の経歴』, 村上享一「南清伝」『明治期鉄道史資料』, 北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆一』,『旧工部大学校史料』,『大日本博士録』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』,『明治過去帳』,『日本人名大事典』

ミヤジマ・カジロウ (?-?. 滞在: 1902 (27 歳)-04) 目的: 化学, 物理・造船学【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆一』

三好文太 (?-?. 滞在：1888 (20 歳)-89) 福井出身, 目的：物理学, 帰国後勤務先：教師→第二高等中学校教授従七位【資料】「三好文太氏小伝」『哲学雑誌』7-69, 北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』

三好晋六郎 (1857.7-1910.1.28. 滞在：1880.2.8-83.7 (ロバート・ネピア会社→グラスゴウ大学)) 江戸出身, 公費留学, 目的：工学 (造船学) 系, 出身校：工部大学校機械科, 帰国後勤務先：工部省御用掛 (工部大学校出勤)【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 『旧工部大学校史料』, 『大日本博士録』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『日本人名大事典』

モリ・イガ (?-?. 滞在：1898 (34 歳)-99) 目的：病理学, 出身校：クーパ・カレッジ (サンフランシスコ)【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』

山本長方 (1870.1-1934.2.16. 滞在：1887.12-95.12, 1910) 名古屋出身, 私費留学 (外務省文書 3 門 10 類 4 項の 1 (建野郷三とともに 2 年)), 私費個人視察, 目的：工学 (造船工学) 系, 帰国後勤務先：長崎三菱造船所【資料】『大日本博士録』, 北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『日本人名大事典』

渡辺嘉一 (1858.2.8-1932.12.4. 滞在：1884.6.9-88 (グラスゴウ大学→ジョン・フラワー工務所・ベンジャミン・ベーカー工務所技師)) 長野県上伊那郡出身, 私費留学, 目的：工学 (土木学) 系, 初勤務先：工部省鉄道局出勤, 帰国後勤務先：日本土木会社技術部長【資料】『大日本博士録』, 北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 『旧工部大学校史料』, 『ケルヴィン卿書簡集』, 渡辺実『近代日本海外留学生史』, 『日本人名大事典』

3. アンダーソン・カレッジ

高峰讓吉 (1854.11.3-1922.7.22. 滞在：1880.2.8-83.2, 1884-85.9.22, 1887- (アンダーソン・カレッジ [グラスゴウ大学])) 石川県金沢出身, 公費留学, 公費個人視察, 公費個人視, 目的：理学 (化学) 系, 出身校：工部大学校化学科

(第一回卒業生として荒川新一郎・石橋絢彦・辰野金吾らと留学), 帰国後勤務先: 農商務省御用掛【資料】三浦孝次編『高峰博士年譜』『日本実業家列伝 9 高峰譲吉』, 北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 『公文録』, 『旧工部大学校史料』, 『大日本博士録』, 『日本人名大事典』

本木小太郎 (?-?. 滞在: 1880 (20 歳)-82 (アンダーソン・カレッジ大学 [グラスゴウ大学]) 【資料】北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』 cf. 松田精一編『故本木先生小伝』

山尾庸三 (1837.10.8-1917.12.22. 滞在: 1863.5-70 (ネィピア造船所徒弟→ユニバーシティ・カレッジ [Yamarou, Y., 確認在籍: 1864-65] →アンダーソン・カレッジ [グラスゴウ大学] 夜学) 山口出身, 公費留学, 目的: 工学系, 出身校: 明倫館, 帰国後勤務先: 民部権大丞・横須賀製鉄所事務取扱→工学寮 (工部大学校) 創立【資料】三好信浩「山尾庸三—国際日本を拓いた先駆者Ⅲ—」『〈明治学院大学国際学部〉国際学研究』3, 北政巳『国際日本を拓いた人々—日本とスコットランドの絆—』, 『明治維新人名辞典』, 『日本人名大事典』